

マシンオートメーションコントローラ NJシリーズ

EtherCAT[®] 接続ガイド

株式会社アイエイアイ

MSCONコントローラ編

Network
Connection
Guide

著作権・商標について

スクリーンショットはマイクロソフトの許可を得て使用しています。

Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

EtherCAT® は、ドイツ Beckhoff Automation GmbH によりライセンスされた特許取得済み技術であり登録商標です。

Sysmac はオムロン株式会社製 FA 機器製品の日本およびその他の国における商標または登録商標です。

本資料に記載されている会社名・製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

目次

1. 関連マニュアル.....	1
2. 用語と定義.....	2
3. 注意事項.....	3
4. 概要.....	4
5. 対象機器とデバイス構成.....	4
5.1. 対象機器.....	4
5.2. デバイス構成.....	5
6. EtherCAT の設定内容.....	7
6.1. EtherCAT の通信パラメータ設定.....	7
6.2. PDO 通信の割り付け.....	8
7. EtherCAT の接続手順.....	10
7.1. 作業の流れ.....	10
7.2. アイエイアイ製 MSCON コントローラの設定.....	11
7.3. コントローラの設定.....	24
7.4. EtherCAT 通信の確認.....	36
8. 初期化方法.....	39
8.1. コントローラの初期化.....	39
8.2. アイエイアイ製 MSCON コントローラの初期化.....	39
9. 改訂履歴.....	40

1. 関連マニュアル

本資料に関連するマニュアルは以下のとおりです。

システムを安全にご使用いただくため、システムを構成する機器・装置のマニュアルや取扱説明書などを必ず入手し、「安全上のご注意」「安全上の要点」など安全に関する注意事項を含め、内容を確認のうえ、使用してください。

Man.No.	形式	マニュアル名称
SBCA-358	形 NJ501-□□□□ 形 NJ301-□□□□	NJ シリーズ CPU ユニット ユーザーズマニュアル ハードウェア編
SBCA-359	形 NJ501-□□□□ 形 NJ301-□□□□	NJ シリーズ CPU ユニット ユーザーズマニュアル ソフトウェア編
SBCD-358	形 NJ501-□□□□ 形 NJ301-□□□□	NJ シリーズ CPU ユニット内蔵 EtherCAT®ポート ユーザーズマニュアル
SBCA-362	形 SYSMAC-SE2□□□	Sysmac Studio Version 1 オペレーションマニュアル
MJ0306	形 MSCON-C-□-□□□- (□□□) -□□-0-□-□	MSCON コントローラ 取扱説明書
MJ0155	形 RCM-101-MW 形 RCM-101-USB	パソコン対応ソフト 取扱説明書


2. 用語と定義


用語	説明・定義
PDO 通信 (Process Data Objects 通信)	<p>常時、マスタとスレーブがデータ交換する方式です。</p> <p>EtherCAT のプロセスデータ通信周期(プライマリ定周期タスクの周期)ごとにサイクリックに、あらかじめ割り付けられた PDO データ (PDO マッピングされた I/O データ) が入出力されます。</p> <p>マシンオートメーションコントローラ NJ シリーズでは、EtherCAT スレーブの入出力、サーボモータの位置制御など、一定の制御周期で入出力データ更新を行う指令に対しては PDO 通信を使用します。</p> <p>マシンオートメーションコントローラ NJ シリーズからは、以下の方法でアクセスします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ EtherCAT スレーブの I/O に対しては、「デバイス変数」による ・ 軸に割り付けたサーボ/エンコーダ入力スレーブ内の各種データに対しては、「軸変数」による
SDO 通信 (Service Data Objects 通信)	<p>必要時、マスタから、スレーブの指定データの読み書きをする方式です。</p> <p>マシンオートメーションコントローラ NJ シリーズでは、パラメータ転送など指定されたタイミングでデータの読み出し/書き込みを行う指令には、SDO 通信を使用します。</p> <p>マシンオートメーションコントローラ NJ シリーズからは、スレーブの指定データ (パラメータ、異常情報など) を、EC_CoESDORed 命令 (CoE SDO 読出) または EC_CoESDOWrite 命令 (CoE SDO 書込) で、読み書きします。</p>
スレーブ	<p>スレーブには、位置情報などのデータを扱うサーボドライバなどから、ビット信号を扱う I/O ターミナルなど様々なものがあります。</p> <p>スレーブは、マスタから送信される出力データを受信し、マスタに入力データを送信します。</p>
ノードアドレス	<p>EtherCAT に接続されたユニットを区別するためのアドレスです。</p>
ESI ファイル (EtherCAT Slave Information ファイル)	<p>EtherCAT スレーブ固有の情報を XML 形式で記述しているファイルです。</p> <p>このファイルを Sysmac Studio に読み込ませることにより、スレーブのプロセスデータの割付など、各種設定を行うことができます。</p>
動作パターン (PIO パターン)	<p>MSCON コントローラの動作パターン (PIO パターン) は 0~2、4、5、8 (8: 工場出荷時の初期設定) の 6 種類の中から選択できます。</p> <p>選択した種別により、選択できる動作モードが変わります。</p>
動作モード	<p>MSCON コントローラの各ドライブユニットの動作モードは、リモート I/O モード以外はドライブユニットごとに選択可能です。</p> <p>ゲートウェイの動作モードを変更した場合、I/O サイズや機能が変わります。</p>

3. 注意事項

- (1) 実際のシステム構築に際しては、システムを構成する各機器・装置の仕様をご確認のうえ、定格・性能に対し余裕を持った使い方をし、万一故障があっても危険を最小にする安全回路などの安全対策を講じてください。
- (2) システムを安全にご使用いただくため、システムを構成する各機器・装置のマニュアルや取扱説明書などを入手し、「安全上のご注意」「安全上の要点」など安全に関する注意事項を含め、内容を確認のうえ使用してください。
- (3) システムが適合すべき規格・法規または規制に関しては、お客様自身でご確認ください。
- (4) 本資料の一部または全部を、オムロン株式会社の許可なしに複写、複製、再配布することを禁じます。
- (5) 本資料の記載内容は、2014年4月時点のものです。
本資料の記載内容は、改良のため予告なく変更されることがあります。

本資料で使われているマークには、次のような意味があります。

 警告	正しい取り扱いをしなければ、この危険のために、軽傷・中程度の傷害を負ったり万一の場合には重傷や死亡に至ったりする恐れがあります。また、同様に重大な物的損害をもたらす恐れがあります。
---	--

 注意	正しい取り扱いをしなければ、この危険のために、時に軽傷・中程度の傷害を負ったり、あるいは物的損害を受けたりする恐れがあります。
---	---

安全上の要点

製品を安全に使用するために実施または回避すべきことを示します。

使用上の注意

製品が動作不能、誤動作、または性能・機能への悪影響を予防するために実施または回避すべきことを示します。

参考

必要に応じて読んでいただきたい項目です。
知っておくと便利な情報や、使用するうえで参考となる内容について説明しています。

図記号の説明



- 記号は、強制を意味しています。
- 具体的な内容は、●の中と文章で示します。
- 左図の場合は、「一般的な強制事項」を表します。

4. 概要

本資料は、株式会社アイエイアイ（以下、アイエイアイ）製 MSCON コントローラを、オムロン株式会社（以下、オムロン）製マシンオートメーションコントローラ NJ シリーズ（以下、コントローラ）と、EtherCAT で接続する手順とその確認方法をまとめたものです。

「6. EtherCAT の設定内容」と「7. EtherCAT の接続手順」で記載している設定内容および設定手順のポイントを理解することにより、EtherCAT の PDO 通信を動作させることができます。

5. 対象機器とデバイス構成

5.1. 対象機器

接続の対象となる機器は以下のとおりです。

メーカー	名称	形式
オムロン	NJ シリーズ CPU ユニット	形 NJ501-□□□□ 形 NJ301-□□□□
アイエイアイ	MSCON コントローラ	形 MSCON-C-□-□□□- (□□□) -EC-0-□-□
アイエイアイ	アクチュエータ	—



使用上の注意

本資料の接続手順および接続確認では、上記対象機器の中から 5.2 項に記載された形式およびバージョンの機器を使用しています。

5.2 項に記載されたバージョンより古いバージョンの機器は使用できません。

上記対象機器の中から 5.2 項に記載されていない形式、あるいは 5.2 項に記載されているバージョンより新しいバージョンの機器を使用する場合は、取扱説明書などにより仕様上の差異を確認のうえ、作業を行ってください。



参考

本資料は通信確立までの接続手順について記載したものであって、接続手順以外の操作、設置および配線方法は記載しておりません。機器の機能や動作についても記載しておりません。取扱説明書を参照するか、機器メーカーまでお問い合わせください。

（株式会社アイエイアイ <http://www.iai-robot.co.jp/>）

上記連絡先は、本資料作成時点のものです。最新情報は各機器メーカーにご確認ください。



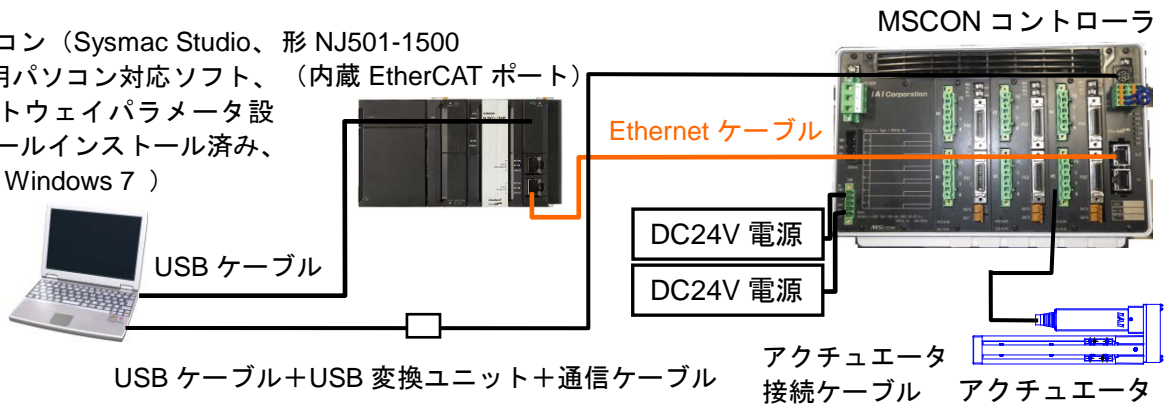
参考

MSCON コントローラに接続可能なアクチュエータに関しては、株式会社アイエイアイにお問い合わせください。

5.2. デバイス構成

本資料の接続手順を再現するための構成機器は以下のとおりです。

パソコン (Sysmac Studio、形 NJ501-1500
RC 用パソコン対応ソフト、(内蔵 EtherCAT ポート)
ゲートウェイパラメータ設定
ツールインストール済み、
OS : Windows 7)



メーカー	名称	形式	バージョン
オムロン	CPU ユニット (内蔵 EtherCAT ポート)	形 NJ501-1500	Ver.1.08
オムロン	電源ユニット	形 NJ-PA3001	
オムロン	Sysmac Studio	形 SYSMAC-SE2□□□	Ver.1.09
—	パソコン(OS : Windows 7)	—	
—	USB ケーブル (USB2.0 準拠 B コネクタ)	—	
オムロン	Ethernet ケーブル (産業用 イーサネットコネクタ付き ケーブル)	形 XS5W-T421-□M□-K	
アイエイアイ	MCON コントローラ	形 MCON-C-6-200I-150I -60I-30DI-20I-EC-0-1	Rev.0x000100 07
アイエイアイ	アクチュエータ	形 RCS2-RA5C-I-60-8-200 -T2-P	
アイエイアイ	モータケーブル	形 CB-RCC-MA□□□	
アイエイアイ	エンコーダケーブル	形 CB-RCS2-PA□□□	
アイエイアイ	RC 用パソコン対応ソフト	形 RCM-101-MW	Ver.9.05.00.0 0-J
アイエイアイ	ゲートウェイパラメータ設定 ツール	(RC 用パソコン対応ソフト に同梱)	Ver.1.2.10.0
アイエイアイ	USB ケーブル	形 CB-SEL-USB010	
アイエイアイ	USB 変換ユニット	形 RCB-CV-USB	
アイエイアイ	通信ケーブル	形 CB-RCA-SIO050	
アイエイアイ	ESI ファイル	ESI_IAI_Gateway_ECT_V_1 _07_Rev_0.xml	Ver.1.07
-	DC24V 電源	—	

**使用上の注意**

本項記載の ESI ファイルを事前に準備してください。ESI ファイルの入手方法は、株式会社アイエイアイまでお問い合わせください。

**使用上の注意**

EtherCAT 通信を、他の Ethernet 通信の回線と共有しないでください。

また、スイッチングハブなどの Ethernet 用機器を使用しないでください。

Ethernet ケーブルには、カテゴリ 5 以上でアルミテープと編組で二重遮へいされたケーブルと、カテゴリ 5 以上でシールド対応のコネクタを使用してください。

ケーブルのシールドは両端ともコネクタフードに接続してください。

**使用上の注意**

Sysmac Studio は、本項記載のバージョン以降に、オートアップデートしてください。

なお、本項記載のバージョン以外を使用すると、7 章以降の手順に差異があることがあります。その場合は、「Sysmac Studio Version 1 オペレーションマニュアル」(SBCA-362)を参照して、手順と同等の処理を行ってください。

**参考**

Ethernet ケーブルの仕様やネットワークの配線については、「NJ シリーズ CPU ユニット内蔵 EtherCAT®ポート ユーザーズマニュアル」(SBCD-358)の「第 4 章 EtherCAT ネットワークの配線」を参照してください。

**参考**

本資料ではコントローラとの接続に USB を使用します。USB ドライバのインストールについては、「Sysmac Studio Version 1 オペレーションマニュアル」(SBCA-362)の「付-1 USB ケーブルで直接接続する場合のドライバのインストール方法」を参照してください。

**参考**

本資料では MICON コントローラとの接続に USB を使用します。USB ドライバのインストールについては、「パソコン対応ソフト 取扱説明書」(MJ0155)の「1.3.3 USB 変換アダプタドライバソフトのインストール方法」を参照してください。

6. EtherCAT の設定内容

本資料で設定する通信パラメータおよび変数名などの仕様を示します。

以降の章では説明内容により、MSCON コントローラを、「相手機器」や「スレーブ」と略しています。

6.1. EtherCAT の通信パラメータ設定

コントローラと相手機器を EtherCAT で接続するための通信パラメータは、以下になります。

■MSCON コントローラ

設定項目	設定値
ノードアドレス	1
ユニット番号	0
各軸の PIO パターン選択	8 (リモート I/O モード以外の動作モード選択)
ゲートウェイの動作モード	直値・ポジションモード
各ドライブユニットの動作モード	簡易直値 (サイズ : 4W) ※ ¹

※¹ 各ドライブユニットの動作モードは、リモート I/O モード以外はドライブユニットごとに選択可能ですが、本資料では、全ドライブユニットを簡易直値モードで使用します。ゲートウェイの動作モードを変更した場合、I/O サイズが変わります。

6.2. PDO 通信の割り付け

相手機器との PDO 通信のデータは、コントローラのデバイス変数に割り当てられます。デバイス変数名とデータ型を以下に示します。

■出力エリア（コントローラ→相手機器）

デバイス変数名	データ型	意味	
E001_Out_OUT00_2003_01	UINT	MSCON ゲートウェイ 制御エリア※ ¹	ゲートウェイ制御 0
E001_Out_OUT01_2003_02	UINT		ゲートウェイ制御 1
E001_Out_OUT02_2003_03	UINT		要求コマンド
E001_Out_OUT03_2003_04	UINT		データ 0
E001_Out_OUT04_2003_05	UINT		データ 1
E001_Out_OUT05_2003_06	UINT		データ 2
E001_Out_OUT06_2003_07	UINT		データ 3
E001_Out_OUT07_2003_08	UINT		占有領域
E001_Out_OUT08_2003_09	UINT	接続軸 制御エリア (軸 No.0) ※ ²	目標位置
E001_Out_OUT09_2003_0A	UINT		目標位置
E001_Out_OUT10_2003_0B	UINT		指定ポジション No.
E001_Out_OUT11_2003_0C	UINT	接続軸 制御エリア (軸 No.1) ※ ²	制御信号
E001_Out_OUT12_2003_0D	UINT		目標位置
E001_Out_OUT13_2003_0E	UINT		目標位置
E001_Out_OUT14_2003_0F	UINT	接続軸 制御エリア (軸 No.2) ※ ²	指定ポジション No.
E001_Out_OUT15_2003_10	UINT		制御信号
E001_Out_OUT16_2003_11	UINT		目標位置
E001_Out_OUT17_2003_12	UINT	接続軸 制御エリア (軸 No.3) ※ ²	目標位置
E001_Out_OUT18_2003_13	UINT		指定ポジション No.
E001_Out_OUT19_2003_14	UINT		制御信号
E001_Out_OUT20_2003_15	UINT	接続軸 制御エリア (軸 No.4) ※ ²	目標位置
E001_Out_OUT21_2003_16	UINT		目標位置
E001_Out_OUT22_2003_17	UINT		指定ポジション No.
E001_Out_OUT23_2003_18	UINT	接続軸 制御エリア (軸 No.5) ※ ²	制御信号
E001_Out_OUT24_2003_19	UINT		目標位置
E001_Out_OUT25_2003_1A	UINT		目標位置
E001_Out_OUT26_2003_1B	UINT	接続軸 制御エリア (軸 No.5) ※ ²	指定ポジション No.
E001_Out_OUT27_2003_1C	UINT		制御信号
E001_Out_OUT28_2003_1D	UINT		目標位置
E001_Out_OUT29_2003_1E	UINT	接続軸 制御エリア (軸 No.5) ※ ²	目標位置
E001_Out_OUT30_2003_1F	UINT		指定ポジション No.
E001_Out_OUT31_2003_20	UINT		制御信号

※¹ すべての動作モードで共通に割り付けられます。

※² 軸 No.0～軸 No.5 を簡易直値モードに設定した場合の割り付けです。

■入力エリア（コントローラ←相手機器）

デバイス変数名	データ型	意味	
E001_In_IN00_2004_01	UINT	MSCON ゲートウェイ 応答エリア※1	ゲートウェイ状態 0
E001_In_IN01_2004_02	UINT		ゲートウェイ状態 1
E001_In_IN02_2004_03	UINT		応答コマンド
E001_In_IN03_2004_04	UINT		データ 0
E001_In_IN04_2004_05	UINT		データ 1
E001_In_IN05_2004_06	UINT		データ 2
E001_In_IN06_2004_07	UINT		データ 3
E001_In_IN07_2004_08	UINT		占有領域
E001_In_IN08_2004_09	UINT	接続軸 応答エリア (軸 No.0) ※2	現在位置
E001_In_IN09_2004_0A	UINT		現在位置
E001_In_IN10_2004_0B	UINT		完了ポジション No.
E001_In_IN11_2004_0C	UINT		状態信号
E001_In_IN12_2004_0D	UINT	接続軸 応答エリア (軸 No.1) ※2	現在位置
E001_In_IN13_2004_0E	UINT		現在位置
E001_In_IN14_2004_0F	UINT		完了ポジション No.
E001_In_IN15_2004_10	UINT		状態信号
E001_In_IN16_2004_11	UINT	接続軸 応答エリア (軸 No.2) ※2	現在位置
E001_In_IN17_2004_12	UINT		現在位置
E001_In_IN18_2004_13	UINT		完了ポジション No.
E001_In_IN19_2004_14	UINT		状態信号
E001_In_IN20_2004_15	UINT	接続軸 応答エリア (軸 No.3) ※2	現在位置
E001_In_IN21_2004_16	UINT		現在位置
E001_In_IN22_2004_17	UINT		完了ポジション No.
E001_In_IN23_2004_18	UINT		状態信号
E001_In_IN24_2004_19	UINT	接続軸 応答エリア (軸 No.4) ※2	現在位置
E001_In_IN25_2004_1A	UINT		現在位置
E001_In_IN26_2004_1B	UINT		完了ポジション No.
E001_In_IN27_2004_1C	UINT		状態信号
E001_In_IN28_2004_1D	UINT	接続軸 応答エリア (軸 No.5) ※2	現在位置
E001_In_IN29_2004_1E	UINT		現在位置
E001_In_IN30_2004_1F	UINT		完了ポジション No.
E001_In_IN31_2004_20	UINT		状態信号

※1 すべての動作モードで共通に割り付けられます。

※2 軸 No.0～軸 No.5 を簡易直値モードに設定した場合の割り付けです。



参考

制御エリアおよび応答エリアの割り付けの詳細については、「MSCON コントローラ 取扱説明書」(MJ0306)の「第3章 運転」－「3.4 フィールドバス仕様アドレスマップ」を参照してください。



参考

デバイス変数名は、「デバイス名」と「ポート名」の組み合わせで自動生成されます。
[デバイス名] の初期値は、スレーブの場合、「E」＋「001 からの連番」です。

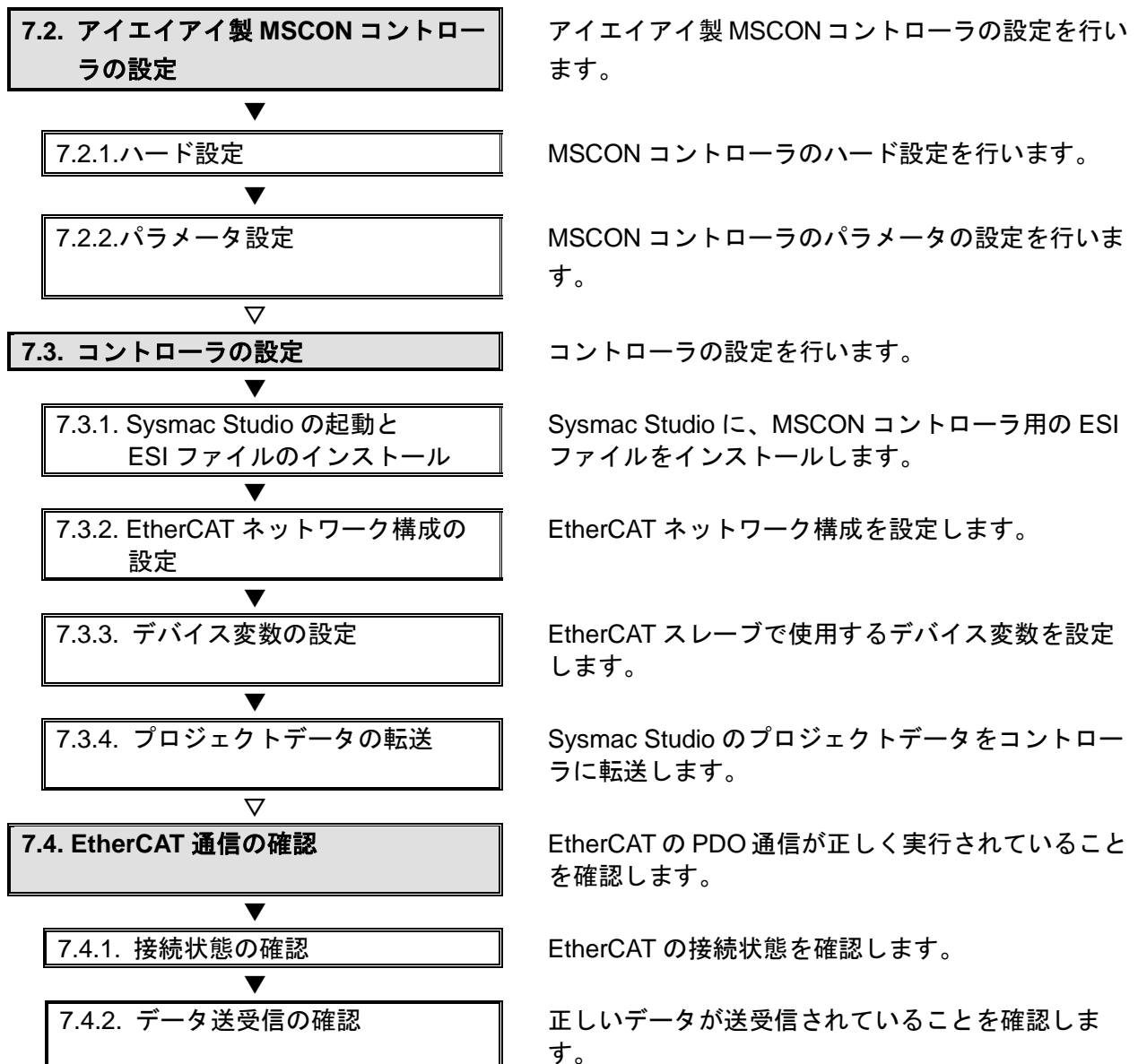
7. EtherCAT の接続手順

本章では、コントローラと MSCON コントローラを EtherCAT 接続する手順について記載します。

本資料では、コントローラおよび MSCON コントローラが工場出荷時の初期設定状態であることを前提として説明します。機器の初期化については「8.初期化方法」を参照してください。

7.1. 作業の流れ

EtherCAT の PDO 通信を動作させるための手順は以下のとおりです。



7.2. アイエイアイ製 MSCON コントローラの設定

アイエイアイ製 MSCON コントローラの設定を行います。

7.2.1. ハード設定

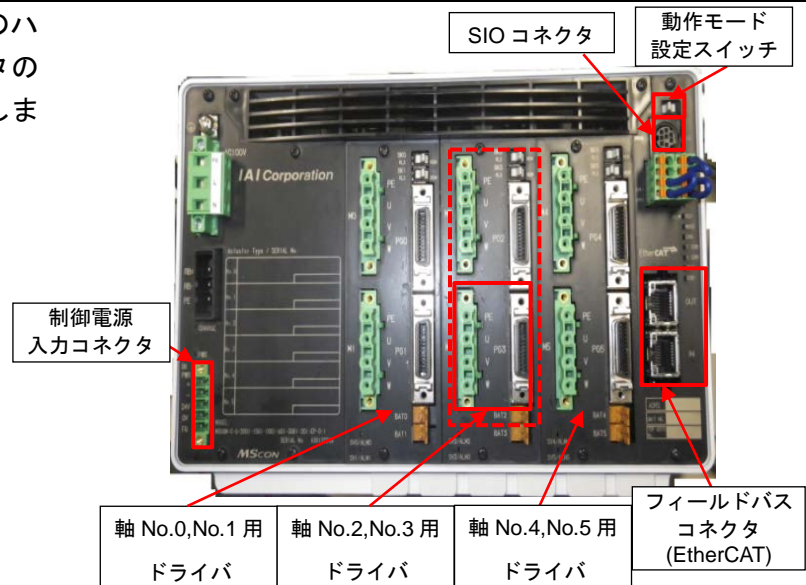
MSCON コントローラのハード設定を行います。

使用上の注意

電源 OFF 状態で設定してください。

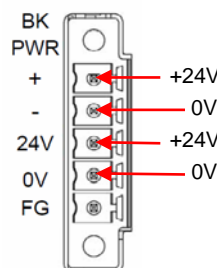
- 1 MSCON コントローラの電源が OFF 状態であることを確認します。

- 2 MSCON コントローラ前面のハードスイッチおよびコネクタの位置を、右図をもとに確認します。



MSCON コントローラの前面

- 3 制御電源入力コネクタを、右図をもとに配線します。

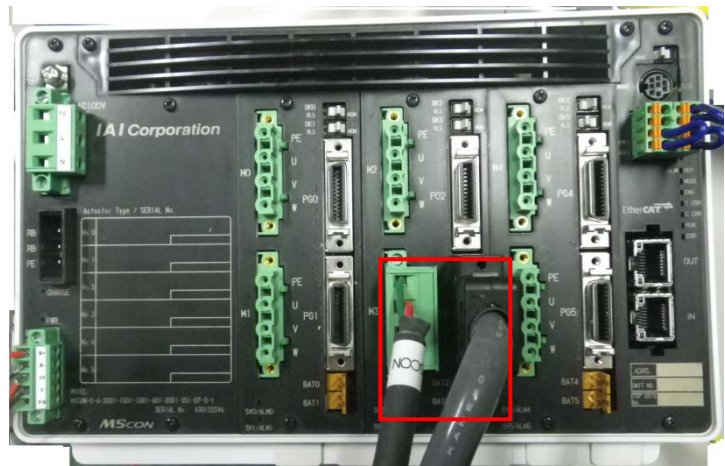


制御電源入力コネクタ正面図

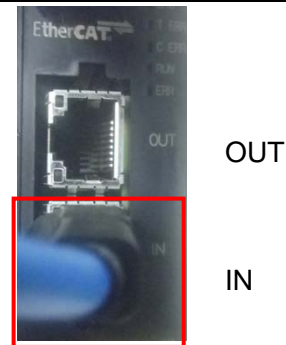
ピン番号	信号名	内容
1	BK PWR+	ブレーキ電源入力
2	BK PWR-	(DC24V±10%)
3	24V	制御電源入力
4	0V	(DC24V±10%)
5	FG	機能接地線

- 4 アクチュエータ接続コネクタにアクチュエータを接続します。本資料では、アクチュエータ（ACサーボモータ）を軸 No2, 軸 No3 用ドライバの軸 No.3 に接続します。

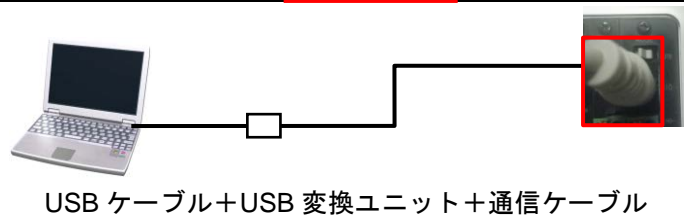
※本資料では、軸 No.0～軸 No.2、軸 No.4～軸 No.5 にはアクチュエータを接続しない状態で接続確認を行っています。



- 5 フィールドバスコネクタ (EtherCAT) の IN 側に Ethernet ケーブルを接続します。



- 6 MScON コントローラとパソコンを USB ケーブルと USB 変換ユニット、通信ケーブルで接続します。



- 7 MScON コントローラ前面の動作モード設定スイッチを [MANU] 側に設定します。

※RC 用パソコン対応ソフトから、パラメータ設定するための設定です。



- 8 MScON コントローラに電源を投入します。

7.2.2. パラメータ設定

MSCON コントローラのパラメータの設定を行います。

使用上の注意

パラメータ設定は「RC 用パソコン対応ソフト」および「ゲートウェイパラメータ設定ツール」で行いますので、対応ソフトおよび USB ドライバを、あらかじめパソコンにインストールしてください。

ドライバなどのインストール方法については「パソコン対応ソフト 取扱説明書」(MJ0155)の「1.3.3 USB 変換アダプタドライバソフトのインストール方法」を参照してください。

使用上の注意

MSCON コントローラは、接続軸ごとに初期設定を行ったあと、ゲートウェイの動作モードの設定を行う必要があります。

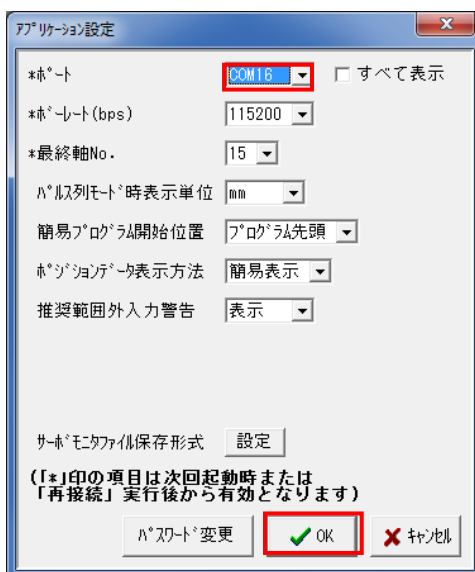
接続軸の初期設定は、「RC パソコン対応ソフト」で行います。

ゲートウェイの動作モードの設定は、「ゲートウェイパラメータ設定ツール」で行います。

- 1 パソコンから「RC 用パソコン対応ソフト」を起動します。

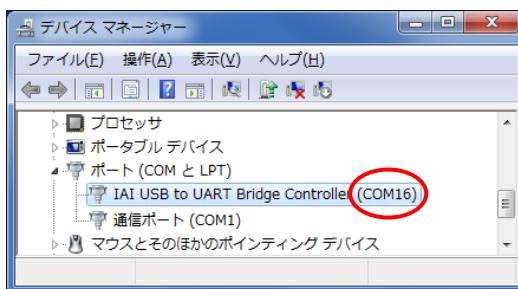


- 2 ソフトインストール後の初回起動時のみ、[アプリケーション設定] ダイアログが表示されます。「ポート」には「COM ポート番号」を選択し、内容を確認して、[OK]をクリックします。



※「パソコンのシリアルポート」が複数存在する場合は、Windows のデバイスマネージャを表示し、「ポート (COM と LPT)」の下の「MSCON コントローラが接続されている COM ポート番号 (右図の例: COM16)」と同じポートを選択します。

※デバイスマネージャは [コントロールパネル] から、[デバイスマネージャ] を選択してください。



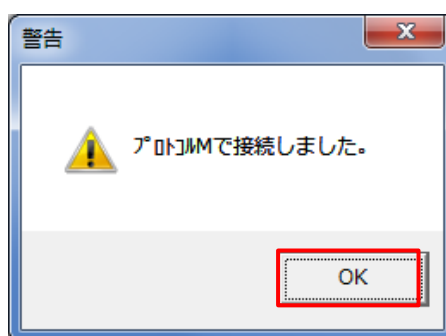
- 3 ソフトを起動すると、右図の [接続軸チェック] ダイアログが表示され、MSCON コントローラとのオンライン接続が行われます。
- MSCON コントローラに装着されたドライバの数だけ接続状態になります。

接続軸のチェックが最終軸（右図の場合は [軸番号：15]）まで終わると、[MANU 動作モード選択] ダイアログが表示されます。

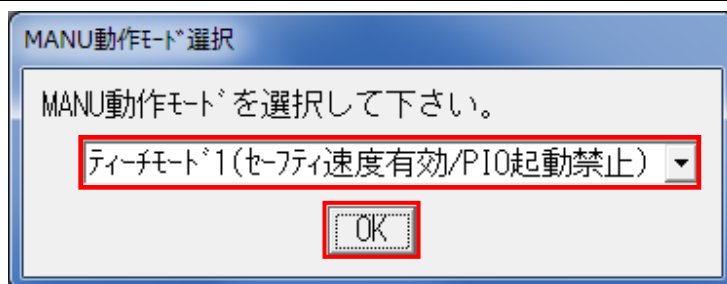
右図のダイアログが表示されますので、問題がないことを確認して、[OK]をクリックします。

※初回起動時のみ表示されません。

軸番号	状態
0	接続
1	接続
2	接続
3	接続
4	接続
5	接続
6	
7	
8	
9	(確認中)
10	
11	
12	
13	
14	
15	

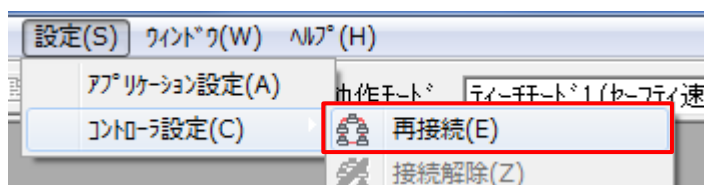
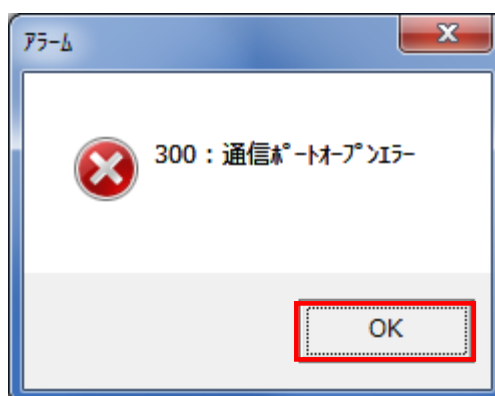


- 4 [MANU 動作モード選択] ダイアログが表示されます。
- 「MANU 動作モード」として [ティーチモード1 (セーフティ速度有効/PIO 起動禁止)] を選択し、[OK]をクリックします。

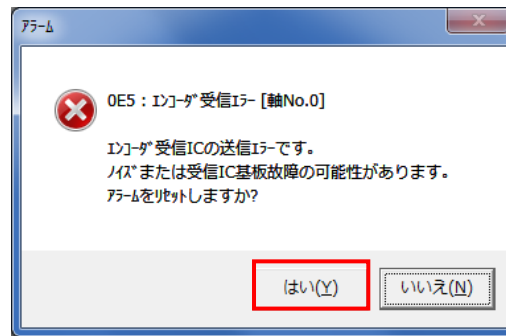


- 5 手順3でオンライン接続ができない場合は、右図の [アラーム] ダイアログが表示されます。
- ケーブルの接続状態や、メニューバーから [設定] - [アプリケーション設定] を選択し、ポート番号等の設定内容を確認（手順2参照）し、[OK]をクリックします。

※MSCON コントローラに再接続する場合は、メニューバーから [設定] - [コントローラ設定] - [再接続] を選択します。（右図参照）



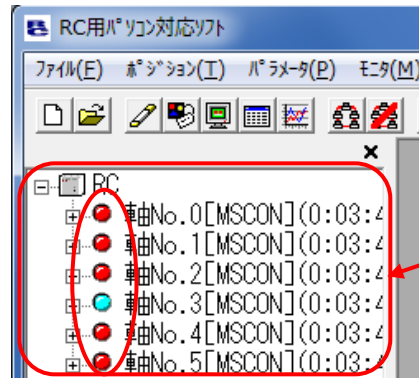
- 6 本資料では、軸 No.3 のみアクチュエータを接続しているため、アクチュエータを接続していない軸では右図のエラーメッセージが表示されますので、問題がないことを確認して、[はい] をクリックしてアラームをリセットします。



エラーの発生しているすべての軸についてエラーリセットを行います。

- 7 ツリービューにアクチュエータを接続した、軸 No.3 は青く表示され、エラーが発生していないことを確認します。

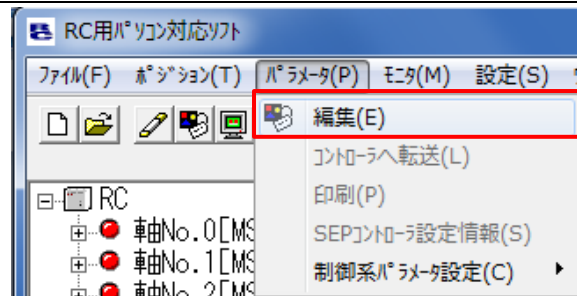
アクチュエータを接続していない軸は赤く表示されます。



ツリービュー

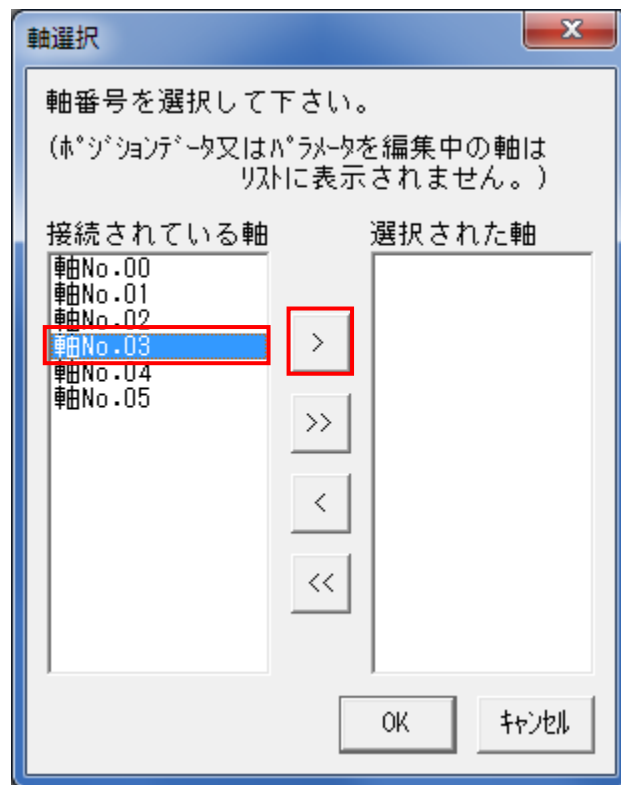
- 8 MSCON コントローラに装着された軸の初期設定を行います。

メニューバーから [パラメータ] - [編集] を選択します。

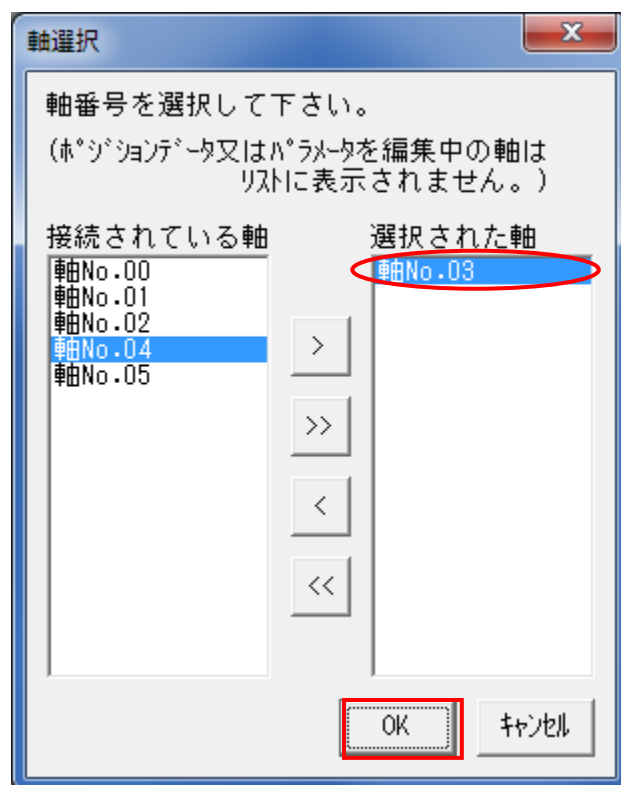


- 9 パラメータを編集する軸番号を選択します。

軸 No.03 を選択し、[>] ボタンをクリックすると、軸 No.03 が右に移動します。



- 10 軸 No.03 が右側に移動したら [OK] をクリックします。



- 11 選択した軸の [パラメータ設定] ウィンドウが開きますので、スクロールして、パラメータ No.25 「PIO パターン選択」と No.158 「有効/無効軸選択」を表示します。
設定値が以下のとおりであることを確認します。(工場出荷状態)

No	パラメータ名称	設定値
22	原点復帰オフセット量[mm]	1.00
23	ゾーン境界2+側[mm]	50.30
24	ゾーン境界2-側[mm]	-0.30
25	PIOパターン選択	8
26	PIOシフト速度[mm/sec]	100
27	移動指令種別[0:レベル/1:エッジ]	0
28	(将来の拡張のための予約)	0

- No.25 PIO パターン選択 :
8 (リモート I/O 以外のゲートウェイの動作モード選択)
No.158 有効/無効軸選択 :
0 (有効)

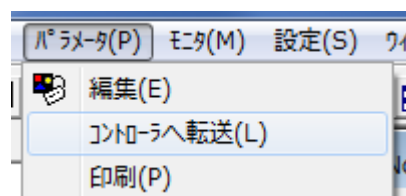
157	駆動原遮断アラームレベル	0
158	有効/無効軸選択[0:有効/1:無効]	0

- 12 パラメータ No.25 「PIO パターン選択」設定値が[8]以外の場合は、「8」に変更します。

※ [設定値] を修正すると、該当の設定入力値が赤色表示となります。(例: [設定値] を「0」から「8」に修正した場合は「8」(赤字)表示となります)

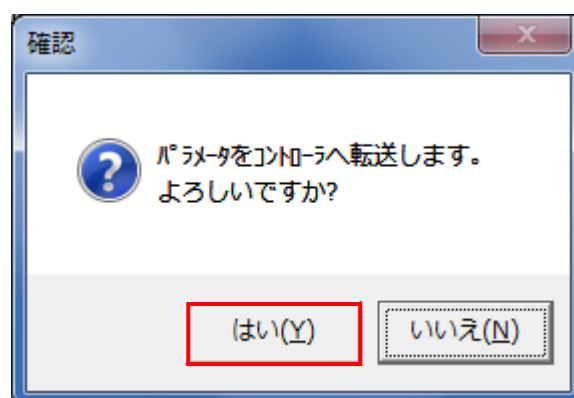
No	パラメータ名称	設定値
22	原点復帰オフセット量[mm]	1.00
23	ゾーン境界2+側[mm]	50.30
24	ゾーン境界2-側[mm]	-0.30
25	PIOパターン選択	8
26	PIOシフト速度[mm/sec]	100
27	移動指令種別[0:レベル/1:エッジ]	0
28	(将来の拡張のための予約)	0

- 13 メニューバーから [パラメータ] - [コントローラへ転送] を選択します。



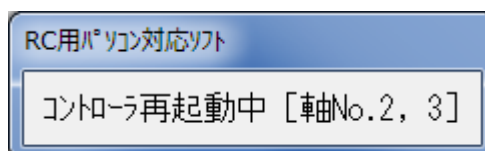
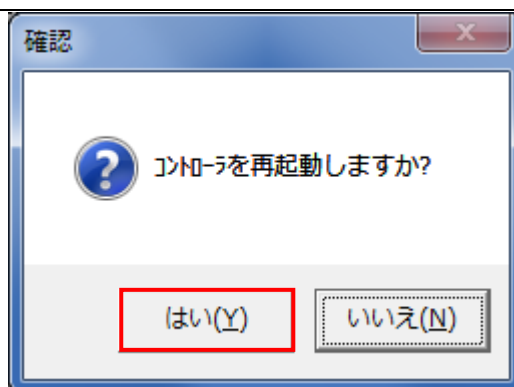
[確認] ダイアログが表示されますので、内容を確認して、[はい] をクリックします。

※前手順で設定値の修正がなかった場合には、[確認] ダイアログは表示されませんので、次手順に進んでください。



- 14 [確認] ダイアログが表示されますので、内容を確認して、[はい] をクリックします。

右図のような再起動中のウィンドウが表示されます。

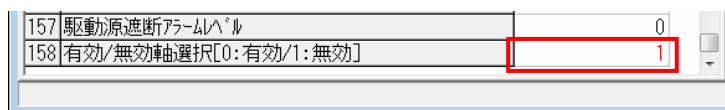
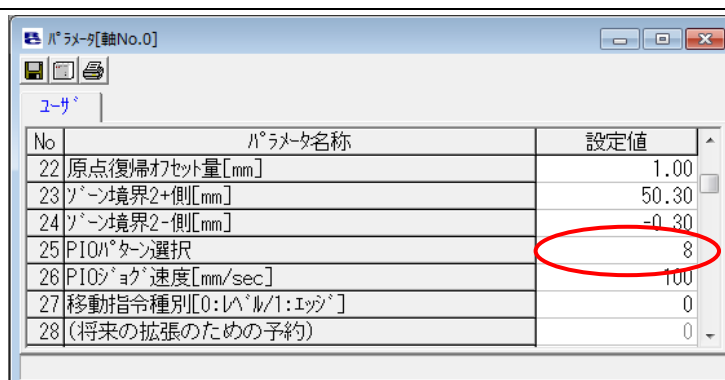


- 15 手順 8~10 と同様に、軸 No.0~2、軸 No.4~5 の [パラメータ設定] ウィンドウを開きます。パラメータを以下のとおり設定します。

No.25 PIO パターン選択 :
8 (リモート I/O 以外)

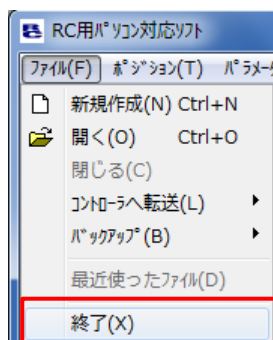
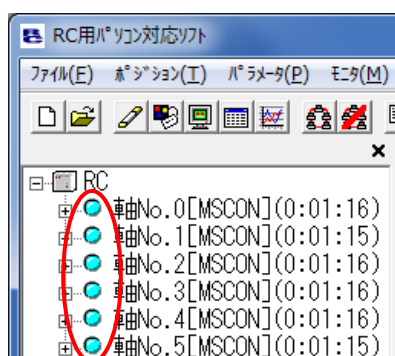
No.158 有効/無効軸選択 :
1 (無効)

設定が終了したら、手順 13~14 と同様にパラメータをコントローラに転送し、再起動します。



- 16 すべての軸についてパラメータ編集が完了すると、「RC 用パソコン対応ソフト」上ですべての軸のエラーが消え青く表示します。

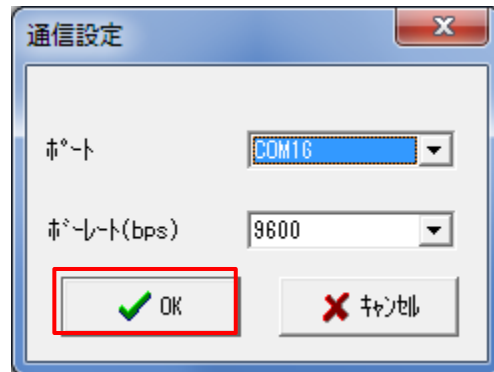
エラーが消えたことを確認し、メニューバーから [ファイル] - [終了] を選択して、「RC 用パソコン対応ソフト」を終了します。



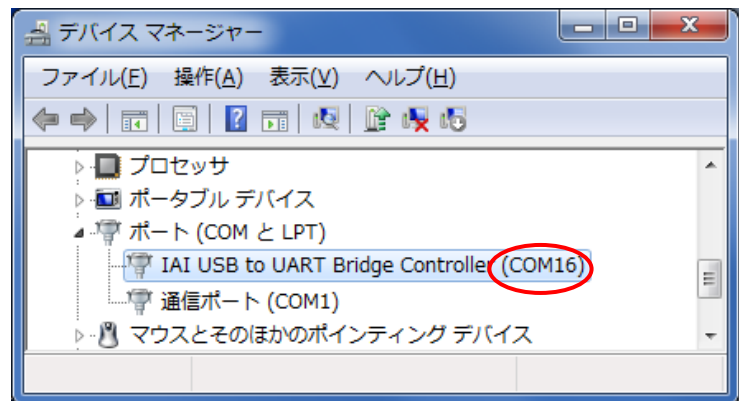
- 17 軸の初期設定が完了したら、ゲートウェイの設定を行います。パソコンから「ゲートウェイパラメータ設定ツール」を起動します。



- 18 ソフトインストール後の初回起動時のみ、[通信設定] ダイアログが表示されます。「ポート」には「COM ポート番号」を選択し、[OK]をクリックします。

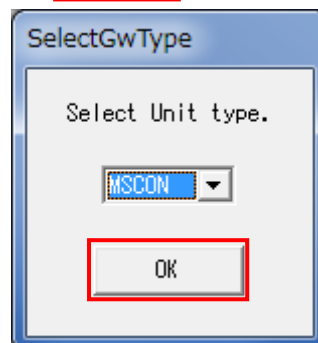
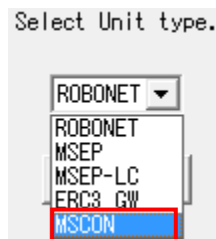


※「パソコンのシリアルポート」が複数存在する場合は、Windows のデバイスマネージャを表示し、「ポート (COM と LPT)」の下の「アイエイアイの機器が接続されている COM ポート番号 (右図の例 : COM16)」と同じポートを選択します。

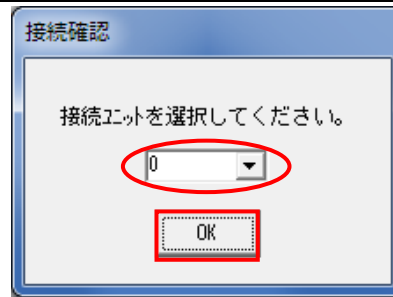


※デバイスマネージャは [コントロールパネル] から、[デバイスマネージャ] を選択してください。

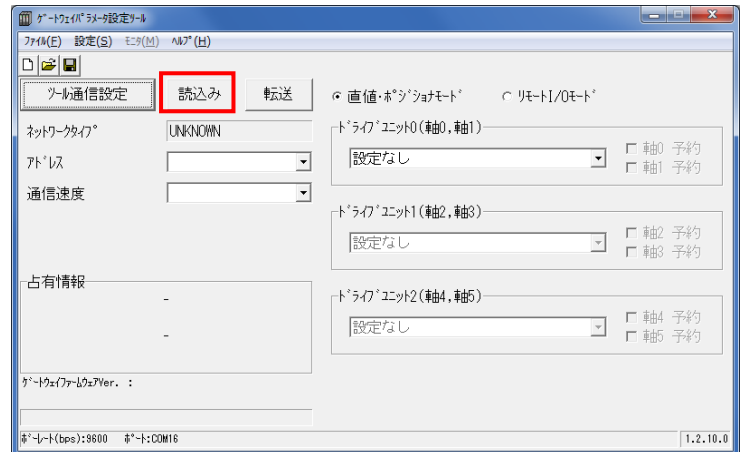
- 19 [SelectGwType]ダイアログが表示されます。[Select Unit type.]のプルダウンメニューから[MSCON]を選択して、[OK]をクリックします。



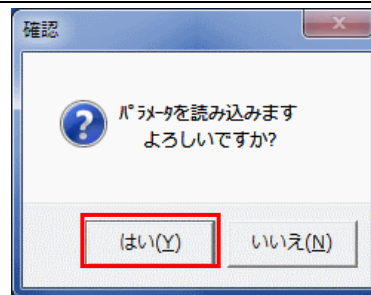
- 20 「接続確認」ダイアログが表示されます。
[0]であることを確認して、[OK]をクリックします。



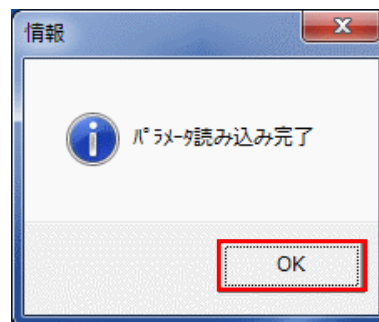
- 21 「ゲートウェイパラメータ設定ツール」の初期画面が表示されます。
「読み込み」をクリックします。



- 22 「確認」ダイアログが表示されます。
内容を確認して、「はい」をクリックします。



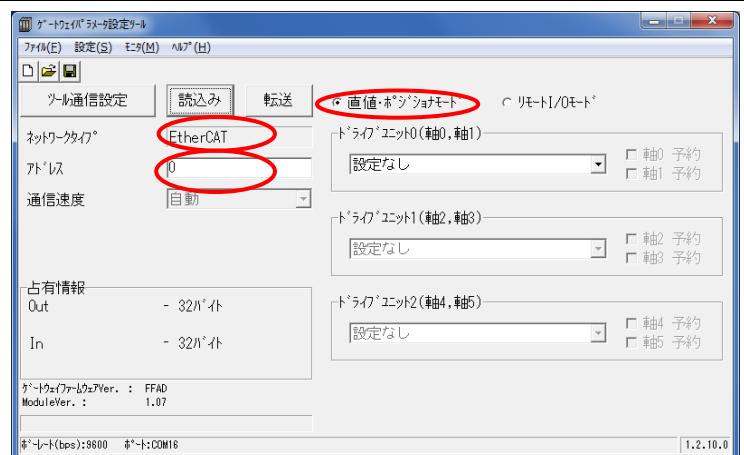
- 23 「情報」ダイアログが表示されたら、「OK」をクリックします。



- 24 「ネットワークタイプ」が[EtherCAT]になったことを確認します。

「アドレス」が、[0]であることを確認します。

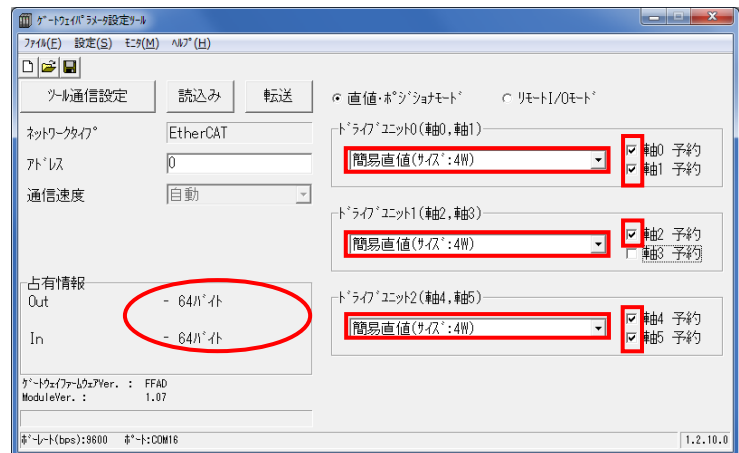
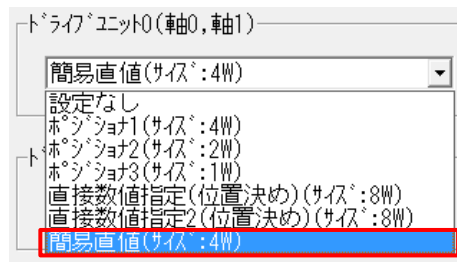
「直値・ポジショナモード」にチェックマークがついていることを確認します。



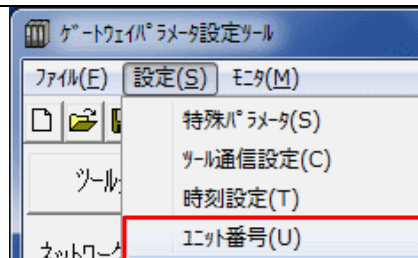
- 25 ドライブユニット0(軸0、軸1)、1(軸2、軸3)と2(軸4、軸5)のプルダウンメニューから [簡易直値 (サイズ: 4W)] を選択します。

ドライブユニット0、1、2を [簡易直値 (サイズ: 4W)] に設定すると、占有情報欄が、Out、Inともに64バイトになることを確認します。

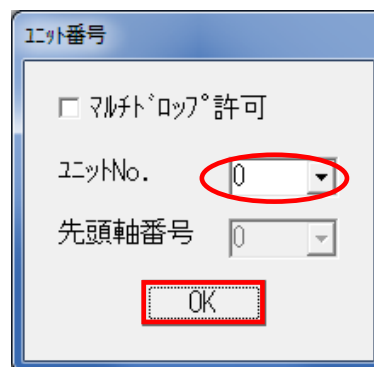
アクチュエータを接続しない、「軸0 予約、軸1 予約、軸2 予約、軸4 予約、軸5 予約」にチェックマークをつけます。



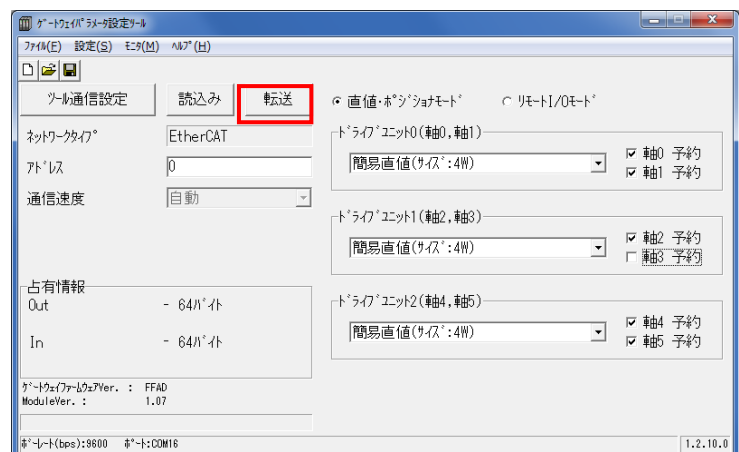
- 26 メニューバーから [設定] - [ユニット番号] を選択します。



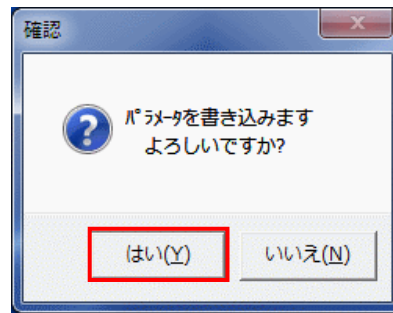
- 27 [ユニット番号] ダイアログが表示されますので、[ユニット No.] が「0」であることを確認し、[OK]をクリックします。



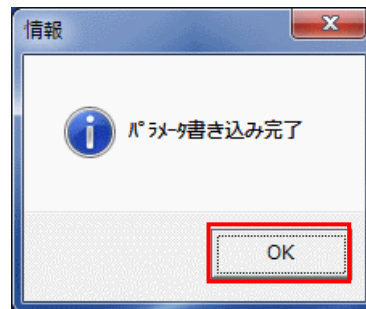
- 28 設定内容を確認して、[転送] をクリックします。



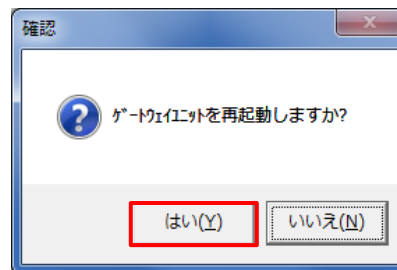
- 29 [確認] ダイアログが表示されますので、内容を確認して、[はい] をクリックします。



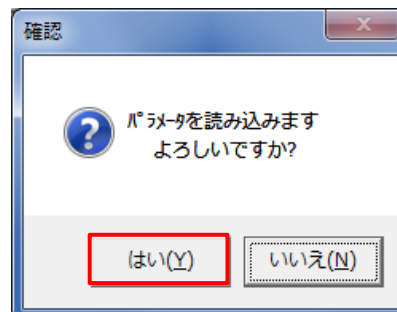
- 30 [情報] ダイアログが表示されたら、[OK]をクリックします。



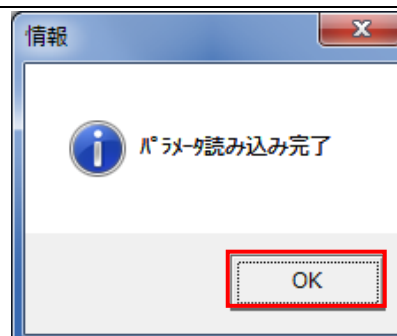
- 31 [確認] ダイアログが表示されますので、内容を確認して、[はい] をクリックします。



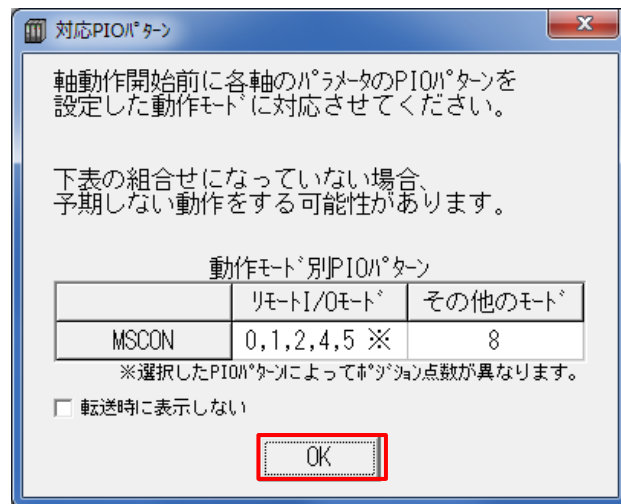
- 32 [確認] ダイアログが表示されますので、内容を確認して、[はい] をクリックします。



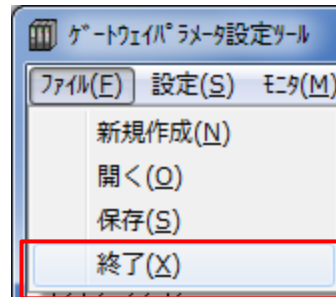
- 33 [情報] ダイアログが表示されますので、[OK]をクリックします。



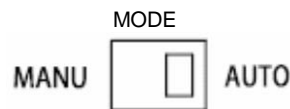
- 34 [対応 PIO パターン] ダイアログが表示されたら、内容を確認して、[OK]をクリックします。



メニューバーから [ファイル] - [終了] を選択して、「ゲートウェイパラメータ設定ツール」を終了します。



- 35 MSCON コントローラ前面のモード切替スイッチを[AUTO]側に設定します。



※モード切替スイッチは、MSCON コントローラの電源が ON 状態でも切り替えが可能です。

7.3. コントローラの設定

コントローラの設定を行います。

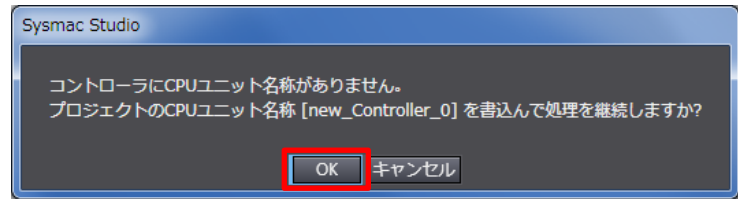
7.3.1. Sysmac Studio の起動と ESI ファイルのインストール

Sysmac Studio に、MSCON コントローラ用の ESI ファイルをインストールします。
Sysmac Studio と USB ドライバをあらかじめパソコンにインストールしてください。

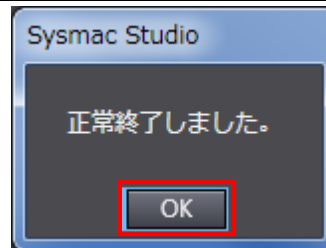
<p>1 コントローラの内蔵 EtherCAT ポート(PORT2)に Ethernet ケーブルを、ペリフェラル(USB)ポートに USB ケーブルを接続し、「5.2. デバイス構成」のように、パソコンおよび MSCON コントローラとコントローラを接続します。</p>	
<p>2 コントローラと MSCON コントローラの電源を投入します。</p>	
<p>3 Sysmac Studio を起動します。 [コントローラに接続] をクリックします。</p> <p>※起動時に、アクセス権確認用のダイアログが表示される場合、起動する選択を行ってください。</p>	
<p>4 [コントローラに接続] ウィンドウが表示されます。</p> <p>[接続方法] から、[USB-直接接続] を選択します。</p> <p>[接続後の動作] の [アップロードを実行する] および [トラブルシューティングを表示する] のチェックを外します。</p> <p>[接続] をクリックします。</p>	

- 5 確認のダイアログが表示されましたら、内容を確認し、[OK]をクリックします。

※使用するコントローラの状態により、表示されるダイアログが異なりますが、内容を確認し、[OK]や[Yes]など処理を進める選択を行ってください。

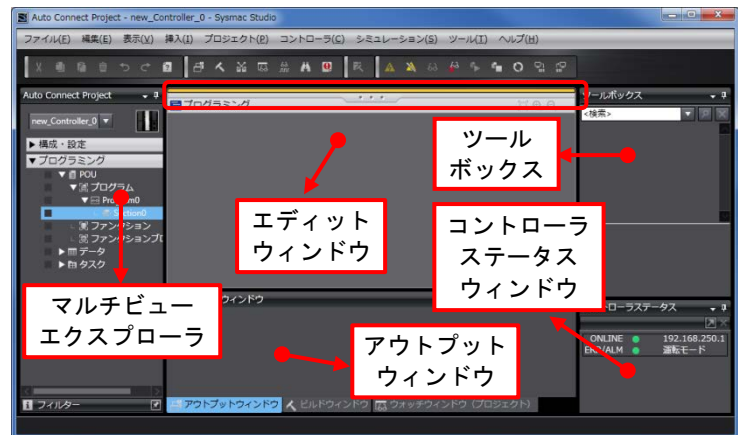


- 6 終了のダイアログが表示されますので、内容を確認し、[OK]をクリックします。



- 7 [Auto Connect Project]画面が、オンライン状態で、表示されます。オンライン状態になると、黄色い枠が表示されます。

画面左側を「マルチビューエクスプローラ」、右側上を「ツールボックス」、右側下を「コントローラステータスウィンドウ」、中央上を「エディットウィンドウ」、中央下を「アウトプットウィンドウ」といいます。

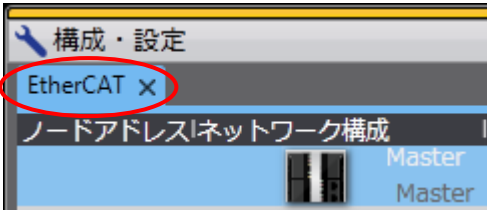
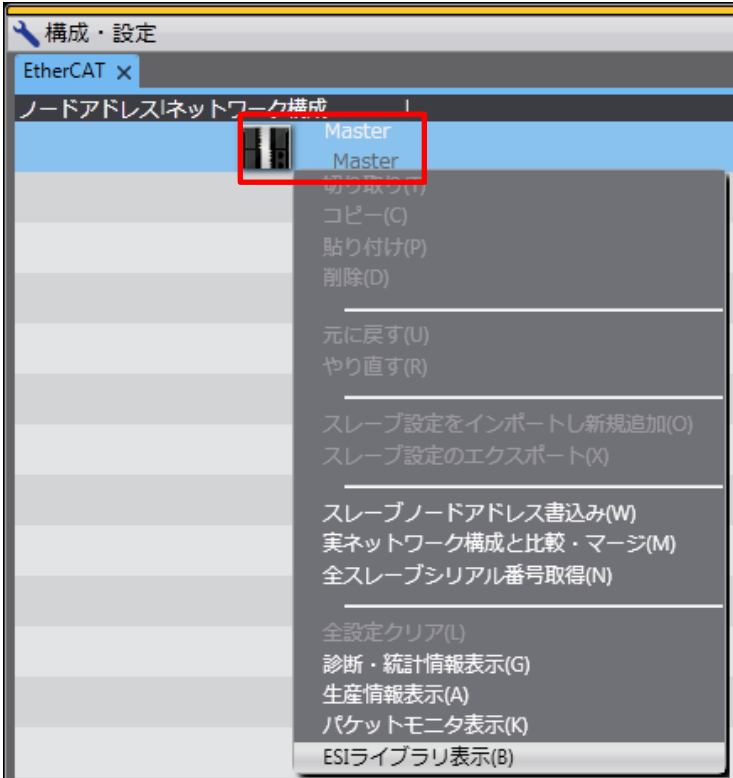
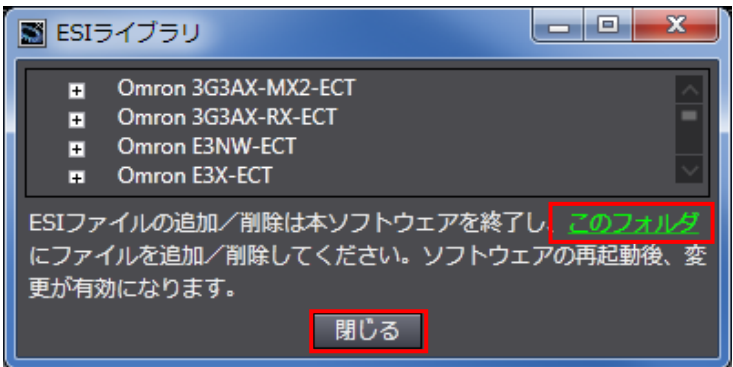



参考

コントローラとのオンライン接続に関する詳細については、「Sysmac Studio Version 1 オペレーションマニュアル」(SBCA-362)の「第6章 コントローラとの接続」を参照してください。

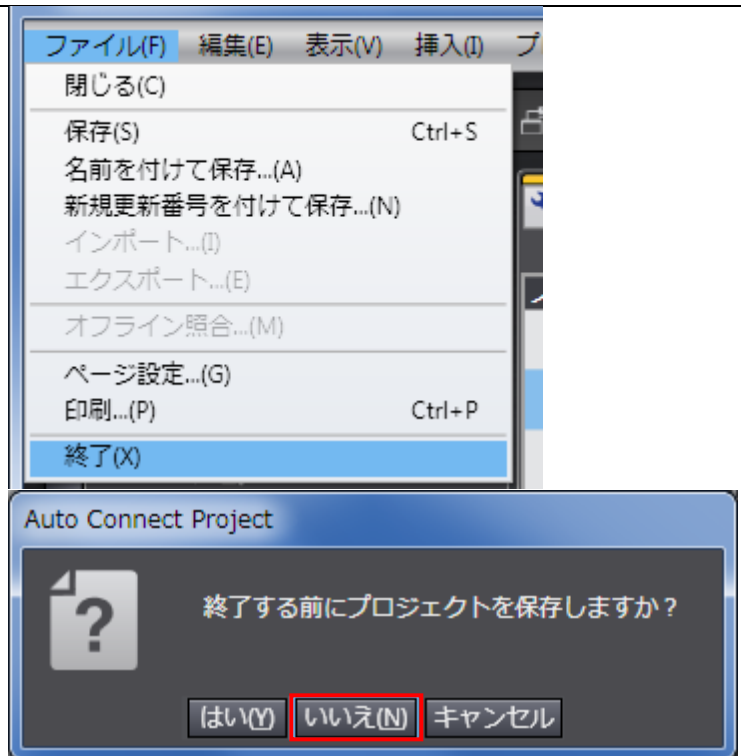
- 8 マルチビューエクスプローラ内の [構成・設定] -[EtherCAT] をダブルクリックします。



- 9 [エディットウィンドウ] に、
[EtherCAT]タブが表示されます。
- 
- 10 [Master]を右クリックし、[ESIライブラリ表示]を選択します。
- 
- 11 [ESIライブラリ]ダイアログが表示されますので、[このフォルダ]をクリックします。
- エクスプローラが起動しますので、[閉じる]をクリックし、ダイアログを閉じます。
- 
- 12 起動したエクスプローラに、ESIファイルをインストールするフォルダが表示されますので、あらかじめ入手した、ESIファイル [ESI_IAI_Gateway_ECT_V_1_07_Rev_0.xml]をコピーします。
- 

- 13 メニューバーから、[ファイル] - [終了] を選択し、Sysmac Studio を終了します。プロジェクト保存の確認ダイアログが表示されますが、保存の必要がなければ、[いいえ] をクリックします。

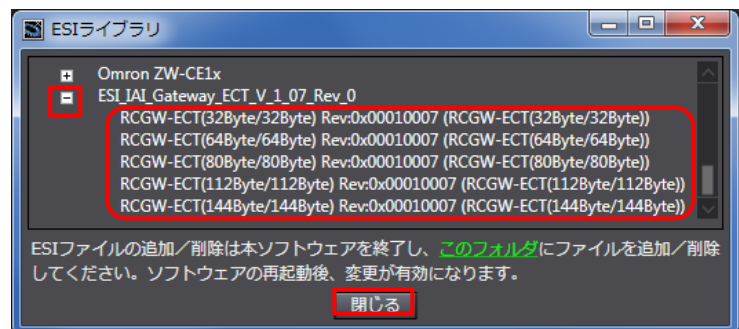
※ESI ファイルをインストールしたあとは、Sysmac Studio を再起動する必要があります。



- 14 本項の手順 3~10 のように、Sysmac Studio を再起動し、[ESI ライブラリ] ダイアログを表示します。表示された [ESI_IAI_Gateway_ECT_V_1_07_Rev_0] の [+] をクリックし、[Rev:0x00010007] の機器が表示されていることを確認します。

警告表示「！」が表示されていないことを確認します。

[閉じる] をクリックします



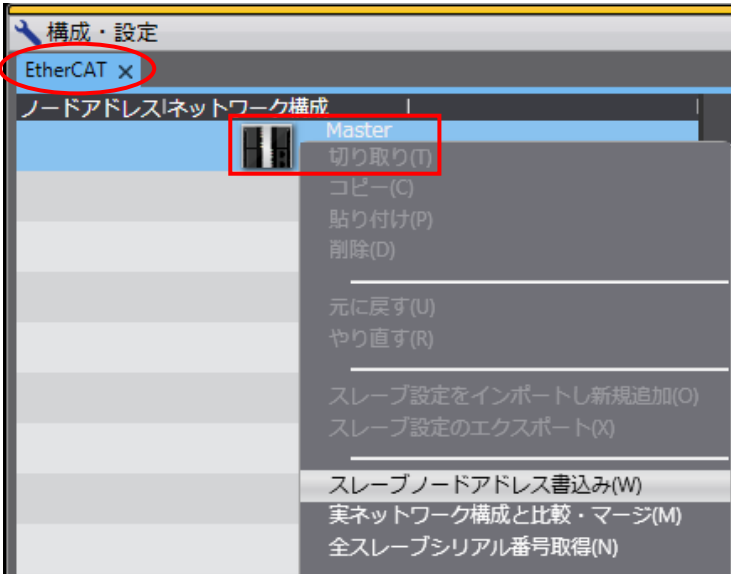
使用上の注意

ESI ファイルに警告表示「！」が表示された場合は、ESI ファイルのファイル名を確認し、正しいファイル名の ESI ファイルを入手してください。正しいファイル名の ESI ファイルであるにもかかわらず、警告表示「！」が表示される場合は、ファイルが壊れている可能性がありますので、機器メーカーまでお問い合わせください。


7.3.2. EtherCAT ネットワーク構成の設定

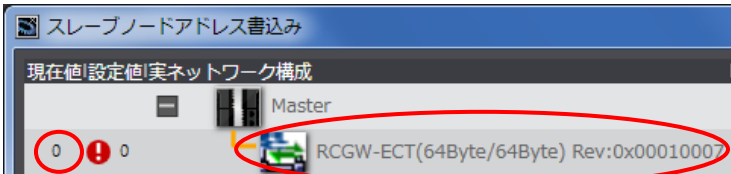
EtherCAT ネットワーク構成を設定します。

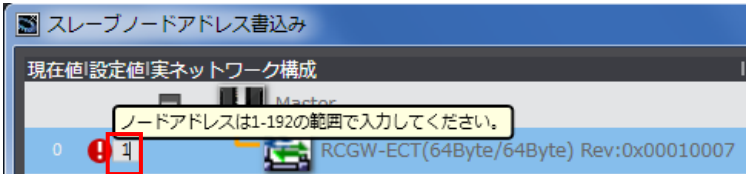
- 1 [エディットウィンドウ] の [EtherCAT] タブで、[Master] を右クリックし、[スレーブノードアドレス書込み] を選択します。

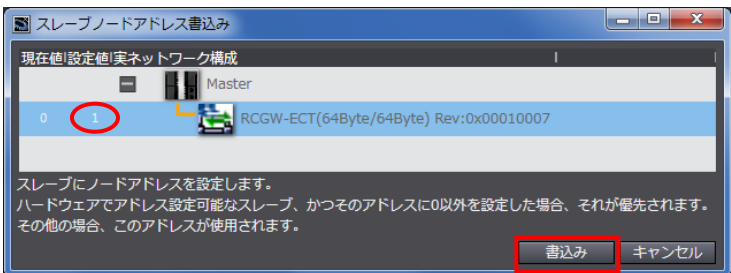


情報取得実行中の画面が表示されます。

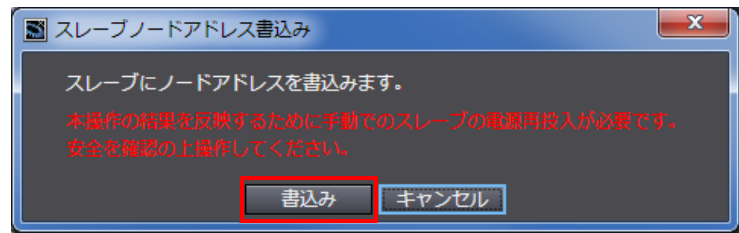

- 2 [スレーブノードアドレス書込み] ウィンドウが表示されます。 [実ネットワーク構成] に、[現在値] (設定ノードアドレス) と [RCGW-ECT(64Byte/64Byte) Rev:00010007] が表示されます。 ※ノードアドレスの [現在値] が「0」の場合、「!」とエラーが表示されます。


- 3 設定値欄に、ノードアドレス「1」を入力します。

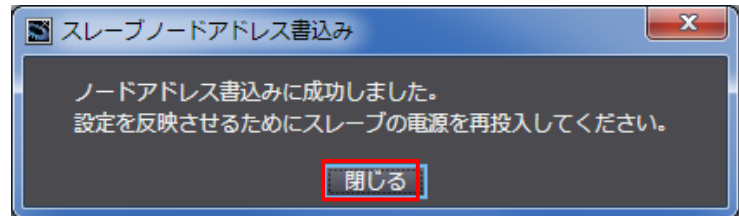

- 4 [設定値] にエラーが発生していき、[1]であることを確認します。 [書込み] をクリックします。



- 5 [スレーブノードアドレス書込み] の確認ダイアログが表示されますので、[書込み] をクリックします。

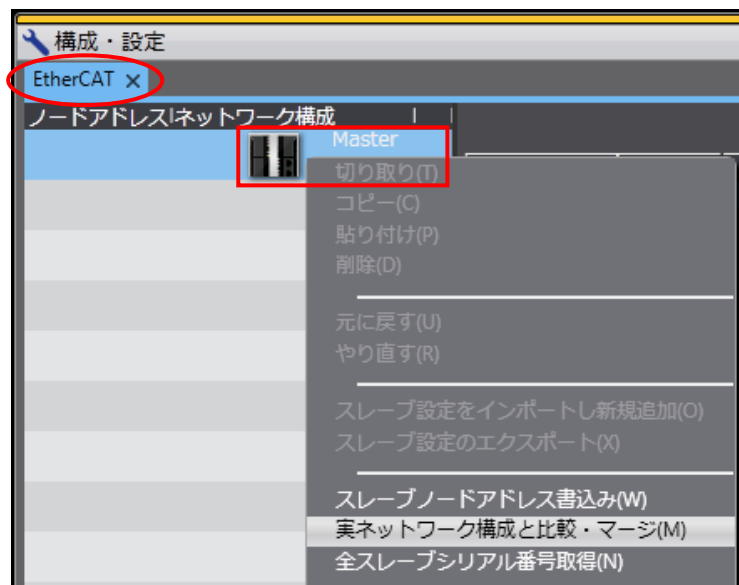


[スレーブノードアドレス書込み実行中] の画面表示後、[スレーブノードアドレス書込み] 成功のダイアログが表示されます。内容を確認し、[閉じる] をクリックします。



- 6 スレーブの電源を再投入します。

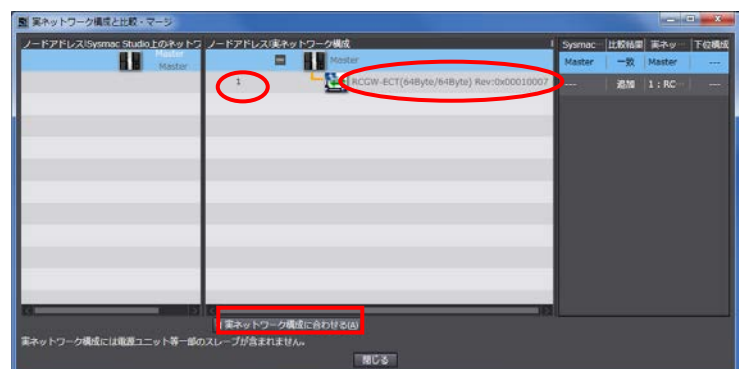
- 7 [EtherCAT] タブの表示に戻りますので、[Master] を右クリックし、[実ネットワーク構成と比較・マージ] を選択します。



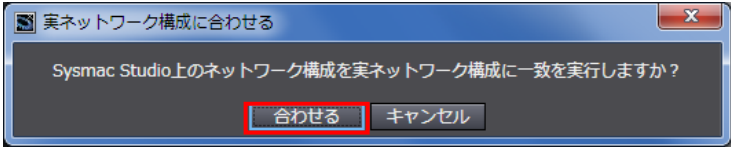
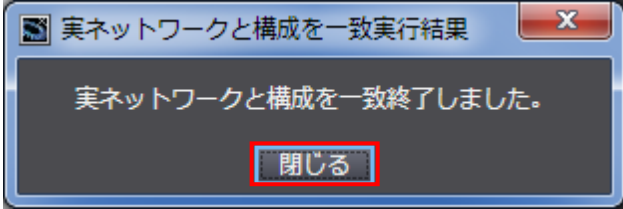

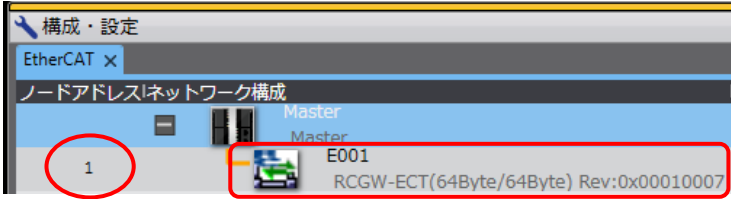
情報取得実行中の画面が表示されます。



- 8 [実ネットワーク構成と比較・マージ] ウィンドウが表示されます。比較結果の実ネットワーク構成に、ノードアドレス「1」、「RCGW-ECT(64Byte/64Byte) Rev:00010007」が追加されます。



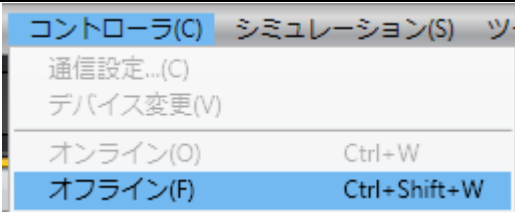
[実ネットワーク構成に合わせる] をクリックします。

- 9 確認のダイアログが表示されますので、内容を確認し、[合わせる] をクリックします。
- 
- 完了確認のダイアログが表示されますので、[閉じる] をクリックします。
- 
- 10 [Sysmac Studio 上のネットワーク構成] に、ノードアドレス「1」、「E001」「RCGW-ECT(64Byte/64Byte) Rev:00010007」が追加されます。
- 
- 追加を確認後、[閉じる] をクリックします。
- 11 [エディットウィンドウ] の [EtherCAT] タブにノードアドレス「1」、「E001」「RCGW-ECT(64Byte/64Byte) Rev:00010007」が追加されます。
- 


7.3.3. デバイス変数の設定

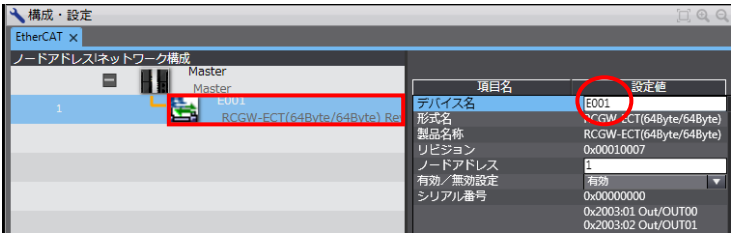
EtherCAT スレーブで使用するデバイス変数を設定します。

- 1 メニューバーから、[コントローラ] - [オフライン] を選択します。




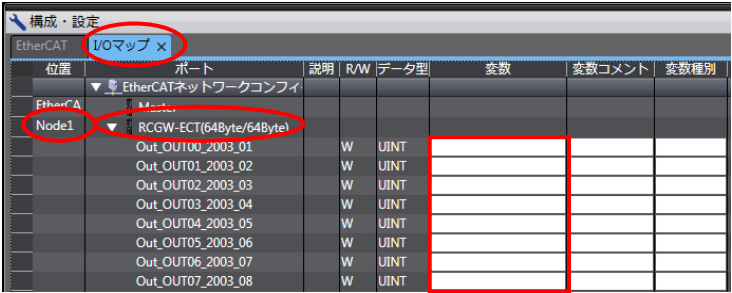
上段の黄色い枠が消えます。


- 2 [EtherCAT]タブで、前項で追加された「RCGW-ECT(64Byte/64Byte)Rev:0x00010007」を選択し、[デバイス名]が[E001]であることを確認します。



※ [デバイス名] は任意に変更が可能です。
- 3 [マルチビューエクスプローラ] から、[構成・設定] - [I/Oマップ] をダブルクリックします。

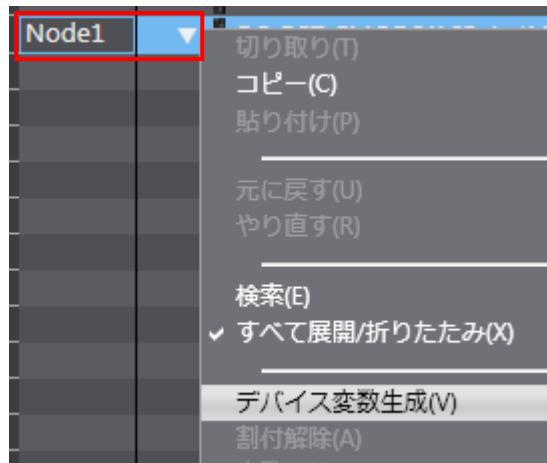

- 4 [エディットウィンドウ] に、[I/Oマップ] タブが表示されます。
[位置] 欄に、[Node1]が表示され、スレーブが表示されていることを確認します。



位置	ポート	説明	R/W	データ型	変数	変数コメント	変数種別
EtherCAT	Master						
Node1	RCGW-ECT(64Byte/64Byte)						
	Out_OUT00_2003_01		W	UINT			
	Out_OUT01_2003_02		W	UINT			
	Out_OUT02_2003_03		W	UINT			
	Out_OUT03_2003_04		W	UINT			
	Out_OUT04_2003_05		W	UINT			
	Out_OUT05_2003_06		W	UINT			
	Out_OUT06_2003_07		W	UINT			
	Out_OUT07_2003_08		W	UINT			

※スレーブの [変数] を独自に設定したい場合、該当エリアをマウスでクリックし、名称を入力します。

- 5 [Node1]を右クリックし、[デバイス変数生成] を選択します。



- 6 [変数] 名と [変数種別] が自動的に設定されます。

位置	ポート	説明	R/W	データ型	変数	変数コメント	変数種別
EtherCAT	Master						
Node1	KCGW-ECT(64Byte/64Byte)						
	Out_OUT00_2003_01		W	UINT	E001_Out_OUT00_2003_01		グローバル変数
	Out_OUT01_2003_02		W	UINT	E001_Out_OUT01_2003_02		グローバル変数
	Out_OUT02_2003_03		W	UINT	E001_Out_OUT02_2003_03		グローバル変数
	Out_OUT03_2003_04		W	UINT	E001_Out_OUT03_2003_04		グローバル変数
	Out_OUT04_2003_05		W	UINT	E001_Out_OUT04_2003_05		グローバル変数
	Out_OUT05_2003_06		W	UINT	E001_Out_OUT05_2003_06		グローバル変数
	Out_OUT06_2003_07		W	UINT	E001_Out_OUT06_2003_07		グローバル変数
	Out_OUT07_2003_08		W	UINT	E001_Out_OUT07_2003_08		グローバル変数
	Out_OUT08_2003_09		W	UINT	E001_Out_OUT08_2003_09		グローバル変数
	Out_OUT09_2003_0A		W	UINT	E001_Out_OUT09_2003_0A		グローバル変数
	Out_OUT10_2003_0B		W	UINT	E001_Out_OUT10_2003_0B		グローバル変数
	Out_OUT11_2003_0C		W	UINT	E001_Out_OUT11_2003_0C		グローバル変数
	Out_OUT12_2003_0D		W	UINT	E001_Out_OUT12_2003_0D		グローバル変数



参考

デバイス変数名は、「デバイス名」と「ポート名」の組み合わせで自動生成されます。
[デバイス名] の初期値は、スレーブの場合、「E」 + 「001 からの連番」です。



参考

本資料では、デバイス変数名をユニット（スレーブ）単位で自動生成しています。デバイス変数名は、ユニット単位でなく、I/O ポートごとに任意の設定が可能です。

7.3.4. プロジェクトデータの転送

Sysmac Studio のプロジェクトデータをコントローラに転送します。

警告

Sysmac Studio からユーザプログラム、「構成／設定」のデータ、デバイス変数、CJ ユニット用メモリの値を転送するときは、転送先ノードの安全を確認してから行ってください。

CPU ユニットの動作モードにかかわらず、装置や機械が想定外の動作をする恐れがあります。



注意

ユーザプログラムを転送すると、CPU ユニットにリスタートが発生し、EtherCAT スレーブとの通信が途絶えます。その間のスレーブ出力は「スレーブ設定」に従います。EtherCAT ネットワーク構成により、通信が途絶える時間が異なります。

ユーザプログラム転送時は装置に影響を与えないことを確認してから行ってください。

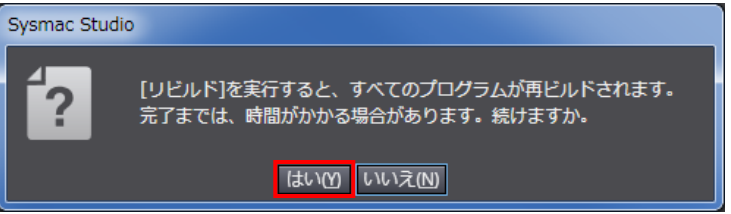
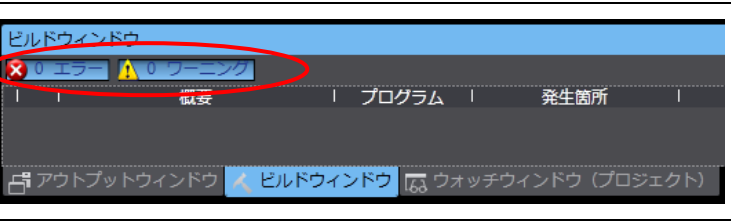
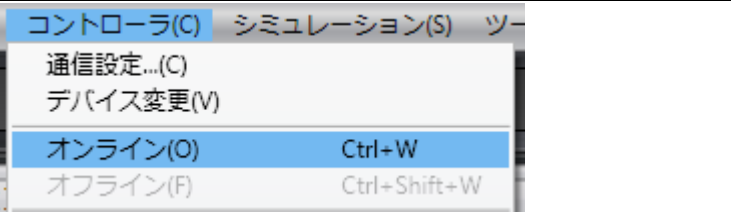

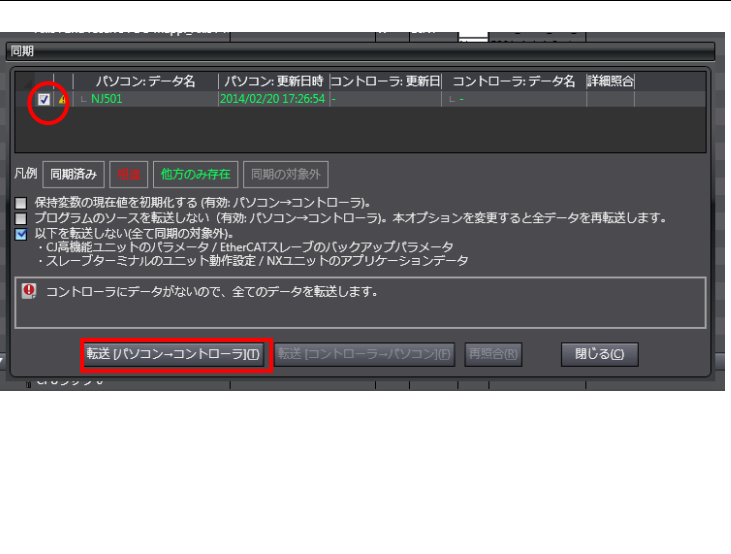


注意

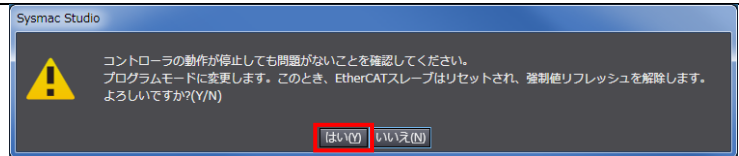
手順 7 以降の同期を実行すると、スレーブがリセットされます。リセットするときには安全を確認してから行ってください。



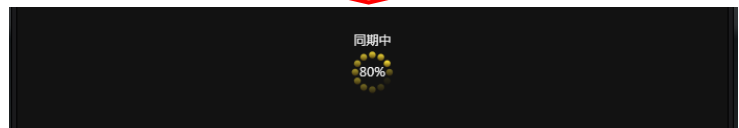
1	メニューバーから、[プロジェクト] - [全プログラムチェック] を選択します。	
2	[ビルドウィンドウ] タブが表示されます。エラーおよびワーニングが、ともに「0」であることを確認します。	
3	メニューバーから、[プロジェクト] - [リビルド] を選択します。	

4	<p>確認用のダイアログが表示されますので、内容を確認し、[はい]をクリックします。</p>	
5	<p>[ビルドウィンドウ] タブ内のエラーおよびワーニングが、ともに「0」であることを確認します。</p>	
6	<p>メニューバーから、[コントローラ] - [オンライン] を選択します。</p>	
7	<p>メニューバーから、[コントローラ] - [同期] を選択します。</p>	
8	<p>[同期] ダイアログが表示されます。 転送したいデータ（右図では、[NJ501]）にチェックがついていることを確認して、[転送 [パソコン→コントローラ]] をクリックします。</p> <p>※ [転送 [パソコン→コントローラ]] を実行すると、Sysmac Studio のデータをコントローラに転送して、データの照合を行います。</p>	

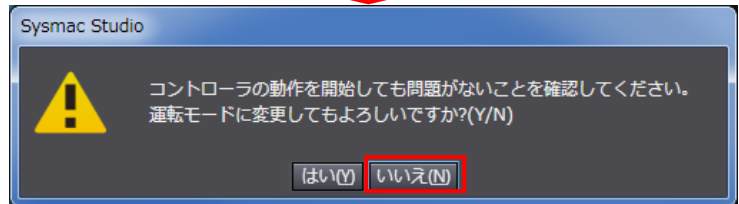
- 9 確認用のダイアログが表示されますので、問題がないことを確認し、[はい] をクリックします。



同期中の画面が表示されます。

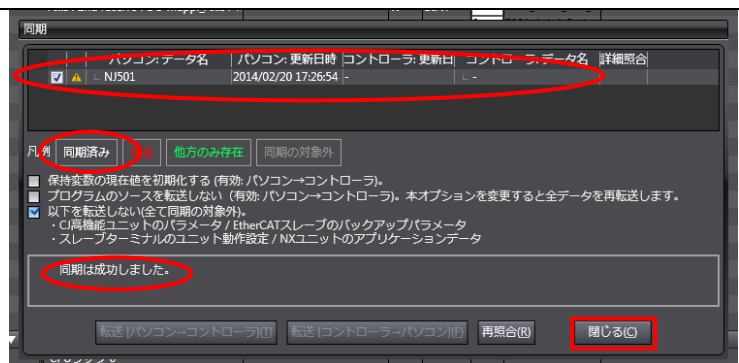


確認用のダイアログが表示されますので、問題がないことを確認し、[いいえ] をクリックします。



※「運転モード」に戻さないようにしてください。

- 10 同期したデータの文字色が「同期済み」色になり、「同期は成功しました。」と表示されていることを確認します。問題がなければ、[閉じる] をクリックします。



※「同期は成功しました。」と表示されることで、Sysmac Studio のプロジェクトデータとコントローラのデータが一致したことを示します。

※同期が失敗した場合は、配線を確認のうえ、手順 1 から再実行してください。

7.4. EtherCAT 通信の確認

EtherCAT の PDO 通信が正しく実行されていることを確認します。

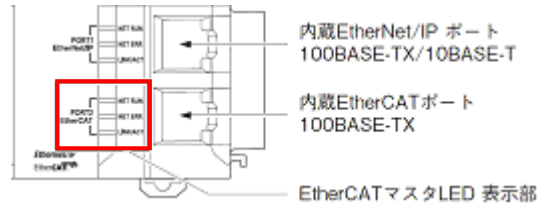
7.4.1. 接続状態の確認

EtherCAT の接続状態を確認します。

- 1 EtherCAT 通信が正常に行われていることをコントローラの LED で確認します。

正常時の LED 状態は以下のとおりです。

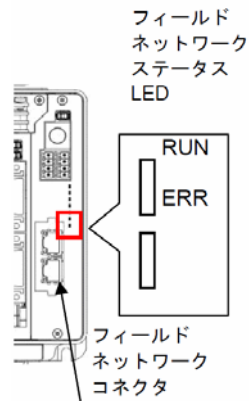
- [NET RUN] : 緑点灯
- [NET ERR] : 消灯
- [LINK/ACT] : 黄点滅



- 2 MICON コントローラの LED を確認します。

正常時の LED 状態は以下のとおりです。

- [RUN] : 緑点灯
- [ERR] : 消灯



7.4.2. データ送受信の確認

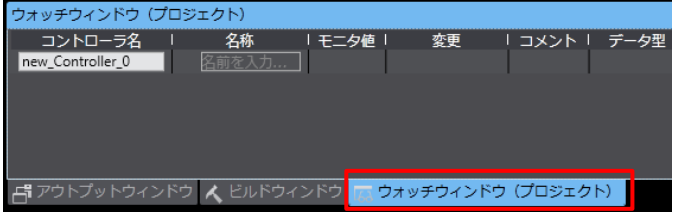
正しいデータが送受信されていることを確認します。

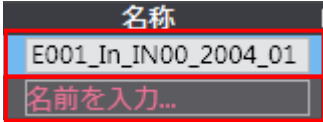
⚠ 注意


オンラインでウォッチウィンドウから変数の値を変更するときは、十分に安全を確認してから行ってください。コントローラの動作モードにかかわらず出力ユニットに接続された機器が動作する恐れがあります。

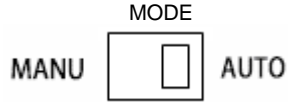


- 1 [ウォッチウィンドウ (プロジェクト)] タブを選択します。

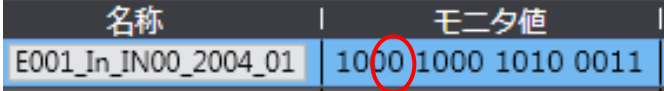

- 2 [ウォッチウィンドウ 1] に、以下のようにモニタする [名称] を入力します。新規名称の入力時は、「名前を入力...」をクリックします。
E001_In_IN00_2004_01

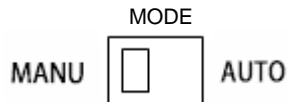

- 3 設定した変数の [表示形式] のプルダウンメニューから、[Binary]を選択します。


- 4 MSCON コントローラ前面の動作モード切替スイッチが[AUTO]であることを確認します。


- 5 [E001_In_IN00_2004_01] の「ビット 12」が「0」であることを確認します。

※[E001_In_IN00_2004_01] (ゲートウェイ状態信号 0) の「ビット 12」 (MOD ビット) の内容は以下のとおりです。

 - ・MSCON コントローラ前面の動作モード設定スイッチの設定
 - 0 : [AUTO]にした場合
 - 1 : [MANU]にした場合
- 6 MSCON コントローラ前面の動作モード設定スイッチを[AUTO]から[MANU]に切り替えます。



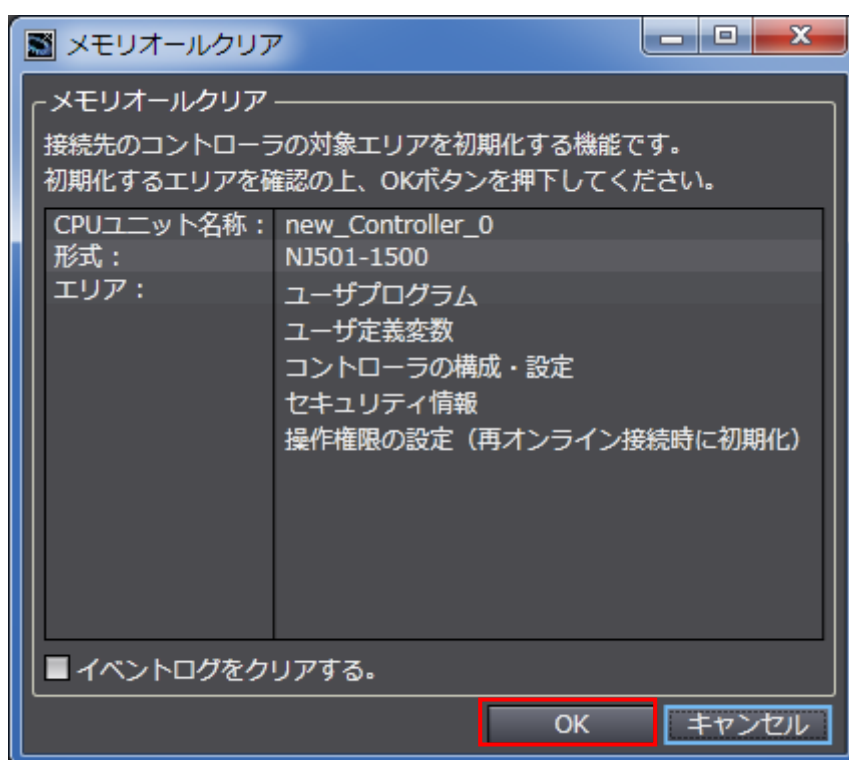
7	[E001_In_IN00_2004_01] の「ビット 12」が「1」に変わったことを確認します。	<table border="1"><thead><tr><th data-bbox="759 174 1059 219">名称</th><th data-bbox="1059 174 1391 219">モニタ値</th></tr></thead><tbody><tr><td data-bbox="759 219 1059 264">E001_In_IN00_2004_01</td><td data-bbox="1059 219 1391 264">1001 1000 1010 0011</td></tr></tbody></table>	名称	モニタ値	E001_In_IN00_2004_01	1001 1000 1010 0011
名称	モニタ値					
E001_In_IN00_2004_01	1001 1000 1010 0011					
8	MSCON コントローラ前面の動作モード切替スイッチを[AUTO]に戻します。	<p data-bbox="759 313 1040 412">MODE MANU <input type="checkbox"/> AUTO</p>				

8. 初期化方法

本資料では、工場出荷時の初期設定状態であることを前提としています。
初期設定状態から変更された機器を利用される場合には、各種設定を手順どおりに進めることができない場合があります。

8.1. コントローラの初期化

コントローラの設定を初期設定状態に戻すためには、Sysmac Studio のメニューバーから [コントローラ] - [メモリオールクリア] を選択します。[メモリオールクリア] ダイアログが表示されますので、内容を確認し、[OK]をクリックします。



8.2. アイエイアイ製 MSCON コントローラの初期化

アイエイアイ製 MSCON コントローラの初期化方法については、「RC 用パソコン対応ソフト (RCM-101-MW / RCM-101-USB)取扱説明書」(MJ0155)の「16.1 パラメータ (工場出荷時) 初期化方法」を参照してください。

9. 改訂履歴

改訂記号	改訂年月日	改訂理由・改訂ページ
A	2013年3月4日	初版
B	2014年4月11日	<ul style="list-style-type: none">・ Sysmac Studio、NJ コントローラおよび ESI ファイルのバージョンアップとバージョンアップにともなう手順の変更。(5 ページ目、23 ページ目~34 ページ目)・ 接続確認する MSCON コントローラの形式変更にとともなう設定内容の変更 (5 ページ目、8 ページ目~9 ページ目、11 ページ目~22 ページ目)

本誌には主に機種のご選定に必要な内容を掲載し、ご使用上の注意事項等は掲載していません。
ご使用上の注意事項等、ご使用の際に必要な内容につきましては、必ずユーザーズマニュアルをお読みください。

- 本誌に記載の標準価格はあくまで参考であり、確定されたユーザ購入価格を表示したものではありません。本誌に記載の標準価格には消費税が含まれておりません。
- 本誌に記載されているアプリケーション事例は参考用ですので、ご採用に際しては機器・装置の機能や安全性をご確認の上、ご使用ください。
- 本誌に記載のない条件や環境での使用、および原子力制御・鉄道・航空・車両・燃焼装置・医療機器・娯楽機械・安全機器、その他人命や財産に大きな影響が予測されるなど、特に安全性が要求される用途に使用される際には、当社の意図した商品用途の場合や特別の合意がある場合を除き、当社は当社商品に対して一切保証をいたしません。
- 本製品の内、外国為替及び外国貿易法に定める輸出許可、承認対象貨物(又は技術)に該当するものを輸出(又は非居住者に提供)する場合は同法に基づく輸出許可、承認(又は役務取引許可)が必要です。

オムロン株式会社 インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー

●製品に関するお問い合わせ先

お客様相談室

フリー 0120-919-066
通話

携帯電話・PHS・IP電話などではご利用いただけませんので、下記の電話番号へおかけください。

電話 055-982-5015 (通話料がかかります)

■営業時間：8:00～21:00 ■営業日：365日

●FAXやWebページでもお問い合わせいただけます。

FAX 055-982-5051 / www.fa.omron.co.jp

●その他のお問い合わせ

納期・価格・サンプル・仕様書は貴社のお取引先、または貴社担当オムロン販売員にご相談ください。
オムロン制御機器販売店やオムロン販売拠点は、Webページでご案内しています。

オムロン制御機器の最新情報をご覧ください。

www.fa.omron.co.jp

緊急時のご購入にもご利用ください。

オムロン商品のご用命は